



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集：

「オープンキャンパス2006」開催！

2006.9.13

No. 1342

特集

「オープンキャンパス2006」開催!

高校生・受験生に向けて東京大学の魅力をお伝える『東京大学オープンキャンパス』。今年も8月1日(火)に本郷キャンパスで、8月2日(水)に駒場キャンパスで開催されました。当日は各学部のコースを始めとして、キャンパスツアー、学生ガイダンス、女子学生コースなど、数々の楽しい企画が行なわれ、参加者に好評を博していました。

8月1日(火)
本郷キャンパス
受付開始



研究所等施設見学

事前参加申し込みをしていない当日参加者も、キャンパス内を自由に散策・見学。以下の施設を開放しました。

★自由見学が行なわれた施設★ 社会科学研究所 史料編纂所
分子細胞生物学研究所 総合図書館 総合研究博物館

●キャンパス内共通の各イベント

午前10時から安田講堂前銀杏並木に並んだ各ブースで受付開始。たくさんの参加者が詰めかけました。参加者は受付を済ませた後、ガイドマップをもらってさっそく目的の場所へ!

キャンパスツアー

午前にも8回、午後にも8回、計16回のキャンパスツアーを敢行。昨年よりも回数を増やして参加者の要望に応えました。

学生ガイダンス

現役東大生のトークによって、参加者に大学生活のイメージを持ってもらおうという企画。今年は『トウダイ、ドウダイ? ~学生ガイダンス2006夏~』というテーマで3回開催されました。

女子学生コース (男女共同参画室企画)

パネルディスカッションによる高校生(参加者)と現役女子学生の交流企画。今年新設されたイベントです。

安田講堂コーナー

普段はなかなか入ることができない安田講堂を参加者に開放。講堂内のスクリーンでは『学術俯瞰講義』のDVDが上映されました。

オープンキャンパスとは?

高校生・受験生に大学を公開して、本学に対する理解を深めてもらおうというイベントです。本学では2000年から本郷キャンパスで開始し、2003年からは駒場キャンパスでも開催されるようになりました。本学に限らず、このイベントは多くの大学で開催されており、入試に関するアドバイスや願書無料配布を行なっている大学もあります。



●学部見学コース

<p>法学部</p> <p>「法」と「政治」を舞台とした知の躍動：君も体験しよう、法学部スタッフが誘う意外に身近な世界</p> <p>学部長挨拶に続き、模擬講義・質疑応答、施設見学、『法学部の四季』上映という流れでプログラムを実施しました。</p>	<p>文学部</p> <p>君を探せ！ 人間という迷宮の中で</p> <p>文学部見学ツアーでは図書室や各分野の研究室を紹介。模擬講義では、日本史やアメリカ文学などの講義を実施しました。</p>	<p>経済学部</p> <p>「経済学」は社会現象を読み解く手法です</p> <p>模擬講義や施設見学を実施。施設見学では、経済学部図書館、ものづくり経営研究センター、金融教育研究センターが紹介されました。</p>
<p>医学部</p> <p>究極の生命科学、それは人間を診る医学です</p> <p>学部長挨拶に続き、模擬講義、施設見学等を実施。施設見学では医学部附属病院と医学図書館が紹介されました。</p>	<p>理学部</p> <p>自然を科学しながら 発見・創造する物語に出会う1日</p> <p>実験の実演、施設見学、展示、現役学生による講演会などを実施。現役学生と参加者との交流も行なわれました。</p>	<p>教育学部</p> <p>皆さんの先輩達が 質問に答えますので、何でも聞いちゃいましょう！</p> <p>模擬講義、ガイダンス、質疑応答を実施。現役学生と参加者との交流も行なわれました。</p>
<p>工学部</p> <p>未来を開く 工学研究のフロンティア</p> <p>40にも及ぶ研究室が研究室見学を実施。建築、ロボット、核融合など、多岐にわたるテーマの解説が行なわれました。</p>	<p>農学部</p> <p>地球に生きる： 生命科学とフィールド科学の 最先端の研究をお見せします！</p> <p>学部紹介、模擬授業、研究室見学を実施。研究室見学は「高度動物医療の現場を見る」、「農学部の地下に海がある！」などのテーマで行なわれました。</p>	<p>薬学部</p> <p>幅広いライフサイエンス研究の 最先端の雰囲気を感じよう</p> <p>学部長挨拶に続き、研究室見学を実施。薬化学、遺伝学、細胞情報学など様々な薬学分野の解説が行なわれました。</p>



8月2日(水)
駒場キャンパス

2日目の駒場キャンパスでは午前9時30分から受付を開始。午前の部では学部長挨拶に続き、キャンパス紹介や総合講演が行なわれました。また、小柴昌俊特別栄誉教授による学術俯瞰講義の映像上映、実験デモパネルの展示、図書館や博物館などの施設見学が行なわれました。午後の部では、文系・理系の様々な模擬講義を実施。また、駒場IIキャンパス研究室見学も行なわれ、先端研や生研も参加者に紹介されました。この日、駒場キャンパスを訪れた参加者は約1,700人にのぼりました。



終了！

大盛況のうちに、今年度のオープンキャンパスも無事終了。この日、本郷キャンパスを訪れた参加者は約4,500人に至りました。翌日(8月2日)の駒場キャンパス参加者の人数も合わせると合計約6,200人。高校生・受験生の皆さんの本学に対する関心の深さがうかがわれますね。参加者の皆さんには、ぜひとも受験を突破して、来年、キャンパスを踏みしめてほしいものです。

NEWS

一般ニュース



研究協力部

総合研究博物館特別展示『時空のデザイン』展の内覧会・レセプション開催される

7月22日(土)から10月9日(月)(予定)まで、総合研究博物館新館では2005-2006ドイツ年と連携して特別展示『時空のデザイン』展が開催されます。

本展示のオープニングに先立ち、7月21日に当館で内覧会・レセプションが開催されました。岡村定矩理事・副学長、森巨元総長、トーマス・シュレーダー ドイツ連邦共和国大使館参事のほか、報道関係者など学内外から多数の出席者がありました。また、レセプション会場を利用して、ジャズコンサートも開催され、盛況のうちに終了しました。



ジャズコンサートの様子



学生部

「2006年日本・ベトナム学生交流会」一行来訪

7月31日(月)、財団法人学生サポートセンター主催の国際交流事業「2006年日本・ベトナム学生交流会」が昨年に引き続き日本で開催され、ベトナム人学生一行20名(ハノイ外国語大学、ハノイ工科大学など)が大学院の一環として東京大学を来訪した。

到着後、山上会館「御殿」にて開催された昼食会では、古田元夫理事・副学長より歓迎の挨拶があり、続いて、訪日団長のハノイ外国語大学長グエン・スアン・ヴァン氏よりお礼の言葉が贈られた。



古田理事・副学長と
ハノイ外国語大学長グエン・スアン・ヴァン氏

それぞれのテーブルでは、キャンパスツアーガイドの学生も着席し、お互いの大学生活や文化等について、情報交換が行われた。来日当日ということもあり、最初は慣れない様子の一行であったが、日本語を学んでいる学生も多く、ガイドの日本人学生ともすぐに打ち解け、会話は和やかに始まった。



赤門前での記念撮影

昼食後は、早速、ガイドの学生の案内により、七徳堂、三四郎池、赤門、総合図書館、安田講堂等の特色ある施設等を見学した。各所でのガイド学生の詳細な故事来歴の説明に、ベトナム人学生達は熱心に耳を傾けるとともに、活発に質問を投げかけていた。特に、大学構内の舗道や銀杏並木、噴水等の風景や特色ある建物群に関心を示し、頻繁に写真に収める姿は印象的であった。

短い滞在時間ではあったが、バスが発券する頃には、ベトナム人学生とガイド学生の間でメールアドレスの交換が行われる等、再会を約束しつつ、交流会の一行は本学を後にした。



安田講堂前での記念撮影



講演会には48名が参加した

また、8月27日（日）9時から、平成18年度文京区総合防災訓練が、農学部グラウンドで実施され、本学として環境安全本部が一般参加した。

文京区では毎年「防災の日」に関連して、大規模な防災訓練を開催している。教育の森公園、六義公園運動場、小石川運動場に続き、今年度は本学の農学部グラウンドが訓練場所として選定された。当日は、本富士警察署、本郷消防署、小石川消防署、郵便局、NTT、東京電力、東京ガス、文京区赤十字婦人奉仕団をはじめとする18機関の協力のもと、煙山区長をはじめとする1,870名が参加し、各町会・自治会の指揮にしたがって、消火活動やバケツリレー等の模擬訓練に汗を流した。なお、本防災訓練を担当した文京区防災安全課では、文京区は30万人以上の昼間人口を持っているが、地域住民の平均年齢は比較的高いため、帰宅困難者へのボランティア活動について、本学の教職員・学生に期待するところが大きいと話している。

環境安全本部
「第1回本郷消防署による講演会」及び「平成18年度文京区総合防災訓練」開催される

一般

8月31日（木）15時から、第1回本郷消防署による講演会が、医学部総合中央館333室で実施された。

本講演会は、本学の教職員や学生を対象として、大学における防火管理体制や自主点検の在り方について、意識向上を図ることを目的としている。今回は、平成18年度の「防災週間」（8月30日～9月5日）にあわせて、本郷消防署予防課の関達夫課長から、本学における火災の発生状況や原因、特徴等があげられ、自動火災報知設備発報に伴う対応等が説明された。当日参加した教職員・学生は、大学における防火管理体制を確保することの重大さについて、あらためて強く認識した様子であった。本講演は引き続き、9月7日（木）に工学部12号館で、10月4日（水）に農学部1号館で、順次開催される予定であり、大学全体の防災意識を高めるため、ひとりでも多くの教職員・学生が聴講するようお願いしたい。



消防署レスキュー隊による救出活動

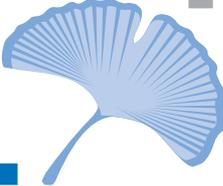


町会・自治会によるバケツリレー

平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1343	9月20日(水)	9月27日(水)	10月3日(火)
1344	10月4日(水)	10月11日(水)	10月18日(水)
1345	10月18日(水)	10月25日(水)	10月31日(火)
1346	10月31日(火)	11月8日(水)	11月14日(火)
1347	11月15日(水)	11月22日(水)	11月29日(水)
1348	学生生活実態調査特集号(予定)		
1349	12月6日(水)	12月13日(水)	12月19日(火)
1350	1月10日(水)	1月17日(水)	1月23日(火)
1351	1月24日(水)	1月31日(水)	2月6日(火)
1352	2月7日(水)	2月14日(水)	2月21日(水)
1353	2月21日(水)	2月28日(水)	3月6日(火)
1354	3月7日(水)	3月14日(水)	3月20日(火)

キャンパス ニュース





学生部

平成17年度学部卒業生及び大学院修了者(修士・博士課程)の就職状況

平成17年度の学部卒業生及び大学院修士・博士課程修了者の就職状況集計結果及び概況は次のとおり。(調査基準日は、平成18年5月1日現在)

1. 平成17年度学部卒業生及び大学院修士・博士課程修了者の就職状況集計結果

学部卒業生及び大学院修士・博士課程修了者のうち、就職希望者数、就職者数及び非就職者数とその内訳を、学部別、研究科別にそれぞれを表1として集計。産業別の就職者数を学部卒業生と大学院(修士課程・博士課程)修了者に区分し、表2「産業別就職者数(平成17年度)」(平成16年度分附記)として集計。(産業区分は、「学校基本調査」の職業分類項目によっている。)表2に示された数字を、学部別、研究科別にそれぞれ表3として集計。過去10年(平成8年度～平成17年度)の就職状況(卒業・修了者数、就職希望者数、就職者数及び非就職者数)の推移を、表4として集計するとともにグラフで表示。

産業区分を「学校基本調査」の職業分類項目によらずに集計していた平成15年度までの産業別就職者数の推移(過去5年)を、参考までに表5として掲示。

2. 平成17年度学部卒業生及び大学院修了者の就職状況概況

平成17年度学部卒業生数は、3,298人、そのうち就職希望者は、1,212人(36.7%)、就職者数は1,069人(32.4%)で、就職を希望した者の88.2%が就職している。非就職者2,229人(67.6%)の大半が大学院進学者(1,746人)で、卒業生数に占める大学院進学者数の割合は、52.9%と就職率(32.4%)を上回っており、この傾向は、平成9年度から引き続いている。なお、非就職者のうち、臨床研修医(予定を含む)は91人、翌年の受験等(公務員試験、司法試験、その他の資格試験等)を目指している者は195人(卒業生数に対する割合は、5.9%)である。大学院修士課程修了者数は、3,003人で、そのうち就職希望者は、1,589人(52.9%)、就職者数は、1,585人(52.8%)で、就職を希望した者の99.7%が就職している。非就職者数は、1,418人(47.2%)。非就職者のうち大学院博士課程への進学者は984人(修了者数の32.8%、非就職者に対する割合は69.4%)である。大学院博士課程修了者は、1,547人で、そのうち就職希望者は659人(42.6%)、就職者数は、631人(40.8%)で、就職を希望した者の95.8%が就職している。非就職者数は916人(59.2%)で、日本学術振興会の特別研究員等も非就職者数としてカウントしてある。

表1 平成17年度学部別卒業者の就職状況

平成18年 5月 1日現在

区分	学部別							農学部		医学部		薬学部	合計	比率 (%)	昨年度同期比率 (%)	
	法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学	獣医学	医学	健康・看護					
学部卒業生数 (A)	569 (140)	373 (57)	347 (138)	93 (35)	179 (60)	308 (37)	927 (70)	250 (46)	30 (12)	98 (15)	34 (15)	90 (34)	3,298 (659)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
就職希望者数 (B)	396 (96)	273 (34)	206 (86)	61 (23)	71 (31)	16	114 (10)	48 (8)	15 (7)		8 (2)	4 (1)	1,212 (298)	36.7 (45.2)	29.2 (32.9)	
就職者数 (C)	255 (51)	273 (34)	206 (86)	61 (23)	70 (31)	16	113 (10)	48 (8)	15 (7)		8 (2)	4 (1)	1,069 (253)	32.4 (38.4)	29.2 (32.9)	
その他 (A-C)	314 (89)	100 (23)	141 (52)	32 (12)	109 (29)	292 (37)	814 (60)	202 (38)	15 (5)	98 (15)	26 (13)	86 (33)	2,229 (406)	67.6 (61.6)	70.8 (67.1)	
その内訳	学部再入学等	5 (2)	8 (2)	2 (1)	1 (1)		1 (1)	4 (1)	2 (1)	1 (1)		1 (1)	5 (2)	30 (13)	0.9 (2.0)	0.9 (2.0)
	大学院進学	168 (42)	32 (7)	93 (34)	26 (9)	98 (28)	262 (31)	774 (57)	187 (35)	10 (3)		19 (9)	77 (29)	1,746 (284)	52.9 (43.1)	52.7 (44.0)
	その他 [上記以外のもの]	141 (45)	60 (14)	46 (17)	5 (2)	11 (1)	29 (5)	36 (2)	13 (2)	4 (1)	98 (15)	6 (3)	4 (2)	453 (109)	13.7 (16.5)	17.2 (21.0)
就職希望率 % (B/A*100)	69.6 (68.6)	73.2 (59.6)	59.4 (62.3)	65.6 (65.7)	39.7 (51.7)	5.2	12.3 (14.3)	19.2 (17.4)	50.0 (58.3)		23.5 (13.3)	4.4 (2.9)	36.7 (45.2)			

注：()内数字は、内数で女子学生数

「その他」欄中：法学部141名(45名)のうち、109名(33名)は自宅勉強者、医学部(医学)98名(15名)のうち91名(15名)は臨床研修医

表1 平成17年度大学院(修士課程)研究科別修了者の就職状況

平成18年 5月 1日現在

区分	研究科別	人文社会系	教育学	法学政治学		経済学	総合文化	理学系	工学系		農学生命科学	医学系		薬学系	数理科学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	*公共政策学	合計	比率 (%)	昨年度同期比率 (%)
				総合法政	*法曹養成				工学系	*原子力		医科学	保健学									
課程修了者数 (A)	149 (61)	59 (34)	35 (20)	178 (39)	57 (10)	232 (85)	321 (57)	753 (87)	15	309 (95)	19 (8)	56 (35)	93 (30)	36 (4)	379 (87)	172 (11)	62 (23)	78 (23)	3,003 (709)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
就職希望者数 (B)	32 (17)	15 (8)	13 (7)	3 (2)	25 (2)	80 (32)	124 (24)	562 (60)	15	185 (75)	4 (3)	12 (6)	41 (23)	19 (3)	237 (48)	126 (9)	30 (12)	66 (18)	1,589 (347)	52.9 (48.9)	51.0 (44.5)	
就職者数 (C)	32 (17)	15 (8)	13 (7)	3 (2)	25 (2)	80 (32)	124 (24)	562 (60)	15	184 (51)	4 (3)	12 (6)	41 (23)	18 (1)	237 (48)	126 (9)	30 (12)	64 (17)	1,585 (320)	52.8 (45.1)	50.8 (43.5)	
その他 (A-C)	117 (44)	44 (26)	22 (13)	175 (39)	32 (8)	152 (53)	197 (33)	191 (27)		126 (44)	15 (5)	44 (29)	52 (7)	18 (3)	142 (39)	46 (2)	32 (11)	14 (6)	1,418 (389)	47.2 (54.9)	49.2 (56.5)	
その内訳	学部再入学等						1	2	3					2	1	2				11 (1)	0.4 (0.1)	1.2 (1.4)
	博士課程進学等	93 (32)	39 (21)	16 (11)	1 (5)	24 (42)	127 (28)	177 (14)	116	99 (31)	15 (5)	40 (27)	49 (7)	15 (2)	94 (22)	43 (2)	28 (9)	8 (4)	984 (262)	32.8 (37.0)	36.6 (37.6)	
	その他 [上記以外のもの]	24 (12)	5 (5)	6 (2)	174 (39)	8 (3)	24 (11)	18 (5)	72 (13)		26 (13)	4 (2)	1 (1)	2 (16)	46 (16)	3 (2)	4 (2)	6 (2)	423 (126)	14.1 (17.8)	11.4 (17.5)	
就職希望率 % (B/A*100)	4.0 (27.9)	25.4 (23.5)	37.1 (35.0)	1.7	43.9 (20.0)	34.5 (37.6)	38.6 (42.1)	74.6 (69.0)	100.0	59.9 (78.9)	21.1 (37.5)	21.4 (17.1)	44.1 (76.7)	52.8 (75.0)	62.5 (55.2)	73.3 (81.8)	48.4 (52.2)	84.6 (78.3)	52.9 (48.9)			

注：()内数字は、内数で女子学生数。*は専門職学位課程

表1 平成17年度大学院(博士課程)研究科別修了者の就職状況

平成18年 5月 1日現在

区分	研究科別	人文社会系	教育学	法学政治学	経済学	総合文化	理学系	農学生命科学		医学系		薬学系	数理科学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	合計	比率 (%)	昨年度同期比率 (%)
								農学	獣医学	医学	保健学								
課程修了者数 (A)	139 (63)	31 (16)	22 (7)	32 (8)	189 (86)	200 (48)	298 (38)	147 (35)	27 (11)	209 (69)	37 (28)	53 (10)	27 (2)	86 (17)	45 (3)	5 (2)	1,547 (443)	100.0 (100)	100.0 (100)
就職希望者数 (B)	32 (17)	14 (6)	4 (1)	17 (7)	58 (26)	45 (9)	131 (13)	51 (14)	14 (6)	116 (33)	18 (15)	31 (5)	26 (1)	73 (15)	24 (3)	5 (2)	659 (172)	42.6 (38.8)	37.0 (30.9)
就職者数 (C)	32 (17)	14 (6)	4 (1)	17 (7)	58 (26)	45 (9)	131 (13)	45 (11)	14 (6)	116 (33)	18 (15)	31 (5)	4 (1)	73 (15)	24 (3)	5 (2)	631 (168)	40.8 (37.9)	36.8 (30.7)
その他 (A-C)	107 (46)	17 (10)	18 (7)	15 (1)	131 (60)	155 (39)	167 (25)	102 (24)	13 (5)	93 (36)	19 (13)	22 (5)	23 (2)	13 (2)	21		916 (275)	59.2 (62.1)	63.2 (69.3)
その内訳	学部/大学院再入学等						1							2			3	0.2 (1.7)	1.5 (1.7)
	その他 [上記以外のもの]	107 (46)	17 (10)	18 (7)	15 (1)	131 (60)	155 (39)	166 (25)	102 (24)	13 (5)	93 (36)	19 (13)	22 (5)	23 (2)	11 (2)	21		913 (275)	59.0 (62.1)
就職希望率 % (B/A*100)	23.0 (27.0)	45.2 (37.5)	18.2	53.1 (87.5)	30.7 (30.2)	22.5 (18.8)	44.0 (34.2)	34.7 (40.0)	51.9 (54.5)	55.5 (47.8)	48.6 (53.6)	58.5 (50.0)	96.3 (50.0)	84.9 (88.2)	53.3 (100.0)	100.0 (100.0)	42.6 (38.8)		

注：()内数字は、内数で女子学生数

表2

平成17年度学部卒業生及び大学院修了者(修士課程・博士課程)の産業別就職者数

平成18年5月1日現在

[単位: 人]

	学部		大学院(修士課程)		大学院(博士課程)	
	平成17年度	平成16年度	平成17年度	平成16年度	平成17年度	平成16年度
農・林・漁・水産業			1	1		
鉱業	2 (1)		6	2 (1)	1	1
建設・設備工事業	13 (1)	15 (2)	43 (5)	28 (5)	8 (2)	3
製造業 計	139 (34)	144 (21)	661 (122)	593 (132)	126 (20)	83 (14)
電気・ガス・熱供給・水道業 計	21 (5)	14 (2)	73 (6)	29 (2)	7 (1)	1
情報通信業	147 (50)	117 (28)	189 (47)	162 (25)	22 (7)	16 (2)
運輸業	33 (9)	32 (6)	31 (2)	33 (1)	1	2
卸売・小売業 計	54 (15)	41 (10)	38 (7)	34 (2)	3	1 (1)
金融・保険業 計	233 (52)	190 (35)	150 (19)	86 (9)	6	1
不動産業	15 (2)	21 (3)	6 (2)	6 (5)		2
飲食店・宿泊業 計	3 (1)	2 (1)				
医療・福祉業 計	4 (2)	8 (4)	8 (5)	6 (3)	95 (32)	84 (19)
教育・学習支援業 計	15 (4)	23 (5)	42 (16)	30 (9)	168 (55)	175 (35)
複合サービス事業	2 (1)		28 (4)	17 (2)	3	1
サービス業	155 (25)	130 (31)	159 (46)	122 (32)	122 (37)	112 (33)
公務	162 (30)	171 (41)	104 (26)	123 (27)	12 (4)	21 (2)
上記以外のもの	71 (21)	40 (7)	46 (13)	108 (24)	57 (10)	34 (5)
合 計	1,069 (253)	948 (196)	1,585 (320)	1,380 (279)	631 (168)	537 (111)

注:()内数字は、内数で女子学生数。

表3 平成17年度学部卒業者の産業別就職者数

平成18年5月1日現在
[単位: 人]

学部別 産業別	法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部		医学部		薬学部	合計	比率(%)
								農学	獣医学	医学	健康・看護			
農・林・漁・水産業			1 (1)				1						2 (1)	0.2 (0.4)
鉱業							8 (1)						13 (1)	1.2 (0.4)
建設・設備工事業	1	3	1				25 (2)	9 (4)	7 (2)				139 (34)	13.0 (13.4)
製造業	17 (4)	33 (2)	30 (12)	9 (5)	8 (3)	1	1						21 (5)	2.0 (2.0)
電気・ガス・熱供給・水道業	4 (2)	8 (1)	2	4 (2)	2		12 (2)	7 (1)					147 (50)	13.8 (19.8)
情報通信業	18 (7)	10 (1)	70 (26)	11 (3)	15 (9)	2	2				2 (1)		33 (9)	3.1 (3.6)
運輸業	9 (3)	8 (1)	9 (3)	3 (2)	2		7 (1)	2 (1)					54 (15)	5.1 (5.9)
卸売・小売業	11 (1)	16 (4)	6 (3)	1 (1)	10 (4)		13	12			1		233 (52)	21.8 (20.6)
金融・保険業	54 (13)	98 (16)	32 (15)	4 (1)	13 (7)	7	2	1					15 (2)	1.4 (0.8)
不動産業	1	8 (1)	1	2 (1)			1		1 (1)				3 (1)	0.3 (0.4)
飲食店・宿泊業											1		4 (2)	0.4 (0.8)
医療・福祉業			2 (1)								2 (1)		15 (4)	1.4 (1.6)
教育・学習支援業		2	5 (1)	5 (3)	2		1	1 (1)					2 (1)	0.2 (0.4)
複合サービス業							12	3 (2)					155 (25)	14.5 (9.9)
サービス業	24 (3)	54 (3)	28 (11)	8 (1)	10 (5)	2	10 (1)	2	4 (2)		2		162 (30)	15.2 (11.9)
公務	77 (8)	33 (5)	10 (7)	14 (4)	8 (3)	4	18 (3)	1 (1)				4 (1)	71 (21)	6.6 (8.3)
上記以外のもの	39 (10)		9 (6)											
合計	255 (51)	273 (34)	206 (86)	61 (23)	70 (31)	16	113 (10)	48 (8)	15 (7)		8 (2)	4 (1)	1,069 (253)	100 (100.0)

注:()内数字は、内数で女子学生数

表3 平成17年度修士課程修了者の産業別就職者数

平成18年5月1日現在
[単位: 人]

研究科別 産業別	人文社会系	教育学	法学政治学		経済学	総合文化	理学系	工学系		農学生命科学	医学系		薬学系	数理学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	*公共政策学	合計	比率(%)	
			総合法政	*法曹養成				工学系	*原子力		医学	保健学									
農・林・漁・水産業							1												1	0.1	
鉱業	1						2												6	0.4	
建設・設備工事業	9 (6)		2 (2)		1	27 (9)	55 (9)	279 (30)	2	95 (23)	4 (3)	6 (3)	27 (17)		8 (1)	1		3 (1)	4 (1)	661 (122)	41.7 (38.1)
製造業					1	20 (8)	13 (2)	27 (2)							6	4			73 (6)	4.6 (1.9)	
電気・ガス・熱供給・水道業	7 (3)		1 (1)		1	1	4	12		28 (10)			2 (1)	5 (1)	41 (9)	28 (5)	5 (3)	11 (2)	189 (47)	11.9 (14.7)	
情報通信業						1	3 (1)	15		1		1			8 (1)	1			31 (2)	2.0 (0.6)	
運輸業	1 (1)					2 (1)	4	12		10 (3)			2 (1)		3	3		1 (1)	38 (7)	2.4 (2.2)	
卸売・小売業	2		1 (1)		11 (1)	7 (4)	10	40 (3)		12 (1)			2	12	19 (3)	19	1 (1)	14 (5)	150 (19)	9.5 (5.9)	
金融・保険業							3 (2)								2	1			6 (2)	0.4 (0.6)	
不動産業																					
飲食店・宿泊業																					
医療・福祉業	2 (2)					4 (2)	10 (5)	2 (1)		5 (2)		2 (1)			4 (2)				8 (5)	0.5 (1.6)	
教育・学習支援業	3	4 (2)	3	3			1	10 (2)		4 (1)			1 (1)		3 (1)	4	3 (1)		42 (16)	2.6 (5.0)	
複合サービス業					6														28 (4)	1.8 (1.3)	
サービス業	7 (5)	8 (4)	3 (1)		14 (8)	15 (3)	37 (4)	5		15 (6)					22 (7)	5	14 (4)	14 (4)	159 (46)	10.0 (14.4)	
公務	1	3 (2)			5 (1)	3	11 (4)	22 (2)		13 (5)			2 (2)	7 (3)	1	12 (2)	5	19 (5)	104 (26)	6.6 (8.1)	
上記以外のもの	2 (2)				1	1	28 (4)								12 (6)		1 (1)		46 (13)	2.9 (4.1)	
合計	32 (17)	15 (8)	13 (7)	3	25 (2)	80 (32)	124 (24)	562 (60)	15	184 (51)	4 (3)	12 (6)	41 (23)	18 (1)	237 (48)	126 (9)	30 (12)	64 (17)	1,585 (320)	100 (100.0)	

注:()内数字は、内数で女子学生数。*は専門職学位課程

表3 平成17年度博士課程修了者の産業別就職者数

平成18年5月1日現在
[単位: 人]

研究科別 産業別	人文社会系	教育学	法学政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命科学		医学系		薬学系	数理学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	合計	比率(%)	
								農学	獣医学	医学	保健学								
農・林・漁・水産業						1											1	0.2	
鉱業							8 (2)										8 (2)	1.3 (1.2)	
建設・設備工事業	1 (1)				3 (1)	22 (4)	39 (1)	14 (6)	1	4 (1)		21 (3)		11 (1)	9 (1)	1 (1)	126 (20)	20.0 (11.9)	
製造業							7 (1)										7 (1)	1.1 (0.6)	
電気・ガス・熱供給・水道業	3 (3)				3 (1)	3 (1)	5 (1)										22 (7)	3.5 (4.2)	
情報通信業							1								3 (1)	5		1	0.2
運輸業																	3	0.5	
卸売・小売業								3									6	1.0	
金融・保険業					1	3				1			1						
不動産業																			
飲食店・宿泊業									1 (1)	81 (23)	9 (7)						95 (32)	15.1 (19.0)	
医療・福祉業						8 (1)	22 (3)	10 (3)		10 (1)	3 (3)		7	2	14 (3)	4 (1)	3 (1)	168 (55)	26.6 (32.7)
教育・学習支援業	22 (10)	12 (5)	4	11 (4)	36 (20)													3	0.5
複合サービス業				3 (2)	11 (4)	8 (3)	25 (4)	12 (1)	9 (3)	18 (8)	4 (3)	3 (2)			18 (4)	3	1	122 (37)	19.3 (22.0)
サービス業	6 (3)	1		1 (1)	2		21 (1)	5 (1)	3 (2)	2			1		1	1		12 (4)	1.9 (2.4)
公務							3 (1)											57 (10)	9.0 (6.0)
上記以外のもの															27 (6)	1 (1)			
合計	32 (17)	14 (6)	4	17 (7)	58 (26)	45 (9)	131 (13)	45 (11)	14 (6)	116 (33)	18 (15)	31 (5)	4	73 (15)	24 (3)	5 (2)	631 (168)	100 (100.0)	

注:()内数字は、内数で女子学生数。

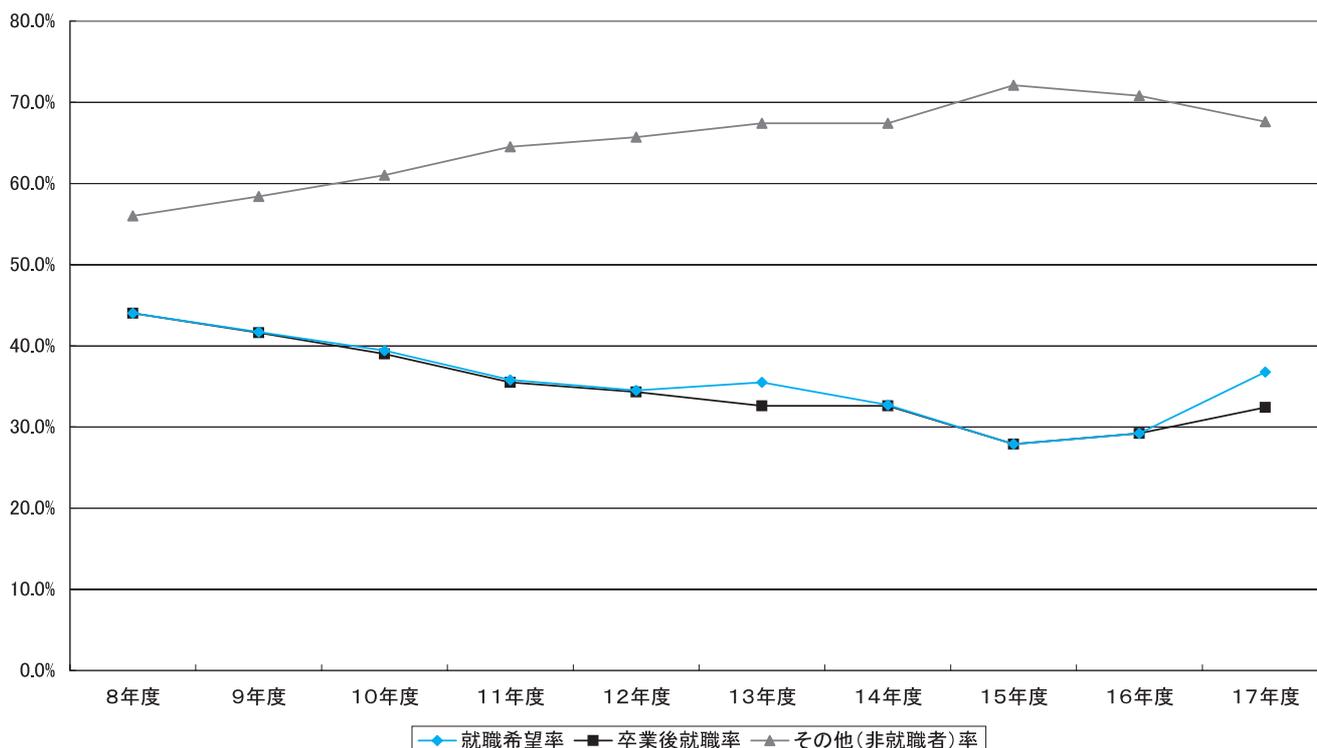
表4

就職状況の推移(学部卒業者及び大学院修士・博士課程修了者)

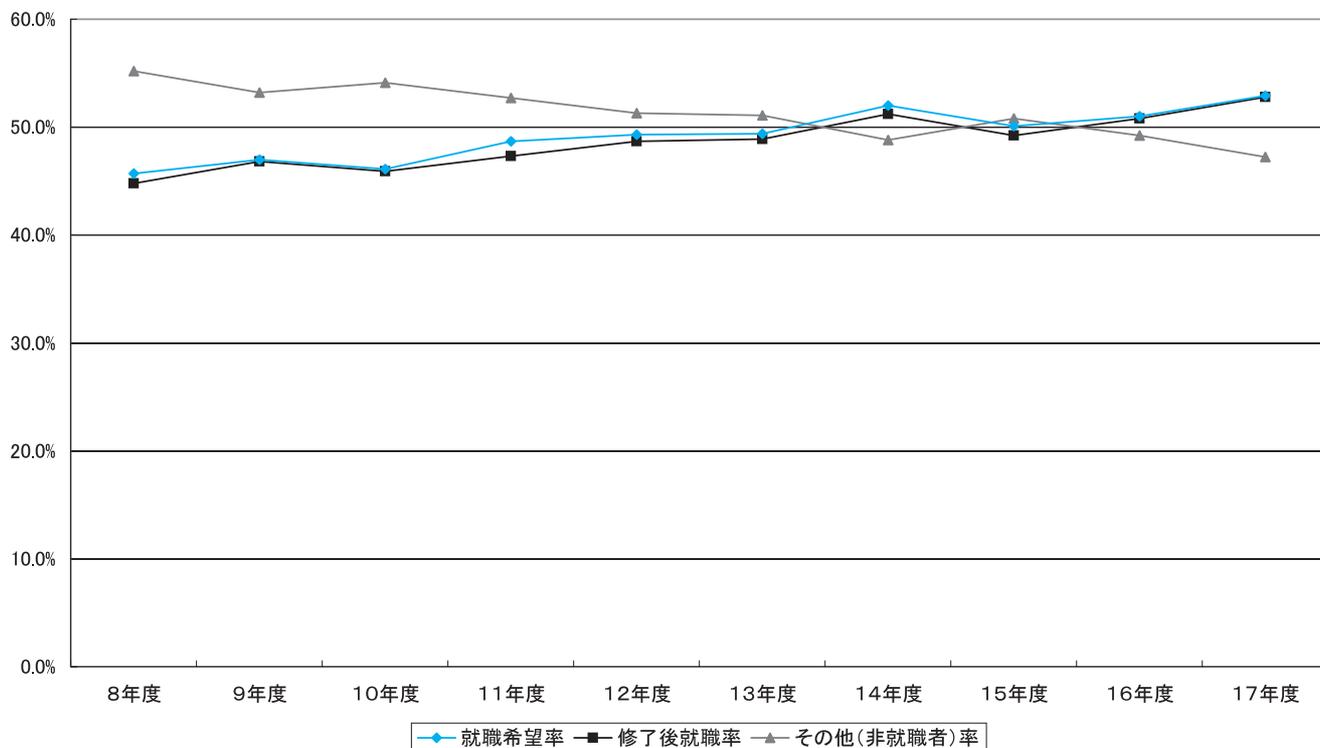
学部卒業者数及び大学院修士・博士課程修了者数(過去10年)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
学部卒業者数	3,576	3,515	3,616	3,368	3,428	3,407	3,380	3,416	3,250	3,298
就職希望者数	1,574	1,465	1,426	1,207	1,182	1,209	1,106	954	948	1,212
卒業後の就職者数	1,574	1,462	1,410	1,197	1,176	1,111	1,103	953	948	1,069
その他(非就職者)数	2,002	2,053	2,206	2,171	2,252	2,296	2,277	2,463	2,302	2,229
就職希望率	44.0%	41.7%	39.4%	35.8%	34.5%	35.5%	32.7%	27.9%	29.2%	36.7%
卒業後就職率	44.0%	41.6%	39.0%	35.5%	34.3%	32.6%	32.6%	27.9%	29.2%	32.4%
その他(非就職者)率	56.0%	58.4%	61.0%	64.5%	65.7%	67.4%	67.4%	72.1%	70.8%	67.6%
修士課程修了者数	2,115	2,231	2,247	2,197	2,470	2,482	2,673	2,711	2,719	3,003
就職希望者数	966	1,049	1,035	1,069	1,217	1,227	1,390	1,359	1,386	1,589
修了後の就職者数	948	1,045	1,031	1,040	1,203	1,213	1,368	1,334	1,380	1,585
その他(非就職者)数	1,167	1,186	1,216	1,157	1,267	1,269	1,305	1,377	1,339	1,418
就職希望率	45.7%	47.0%	46.1%	48.7%	49.3%	49.4%	52.0%	50.1%	51.0%	52.9%
修了後就職率	44.8%	46.8%	45.9%	47.3%	48.7%	48.9%	51.2%	49.2%	50.8%	52.8%
その他(非就職者)率	55.2%	53.2%	54.1%	52.7%	51.3%	51.1%	48.8%	50.8%	49.2%	47.2%
博士課程修了者数	892	935	964	894	1,223	1,388	1,371	1,532	1,458	1,547
就職希望者数	458	435	517	471	617	677	619	669	539	659
修了後の就職者数	451	427	501	456	599	635	591	586	537	631
その他(非就職者)数	441	508	463	438	624	753	780	946	921	916
就職希望率	51.3%	46.5%	53.6%	52.7%	50.4%	48.8%	45.1%	43.7%	37.0%	42.6%
修了後就職率	50.6%	45.7%	52.0%	51.0%	49.0%	45.7%	43.1%	38.3%	36.8%	40.8%
その他(非就職者)率	49.4%	54.3%	48.0%	49.0%	51.0%	54.3%	56.9%	61.7%	63.2%	59.2%

学部就職状況の推移



修士課程就職状況の推移



博士課程就職状況の推移

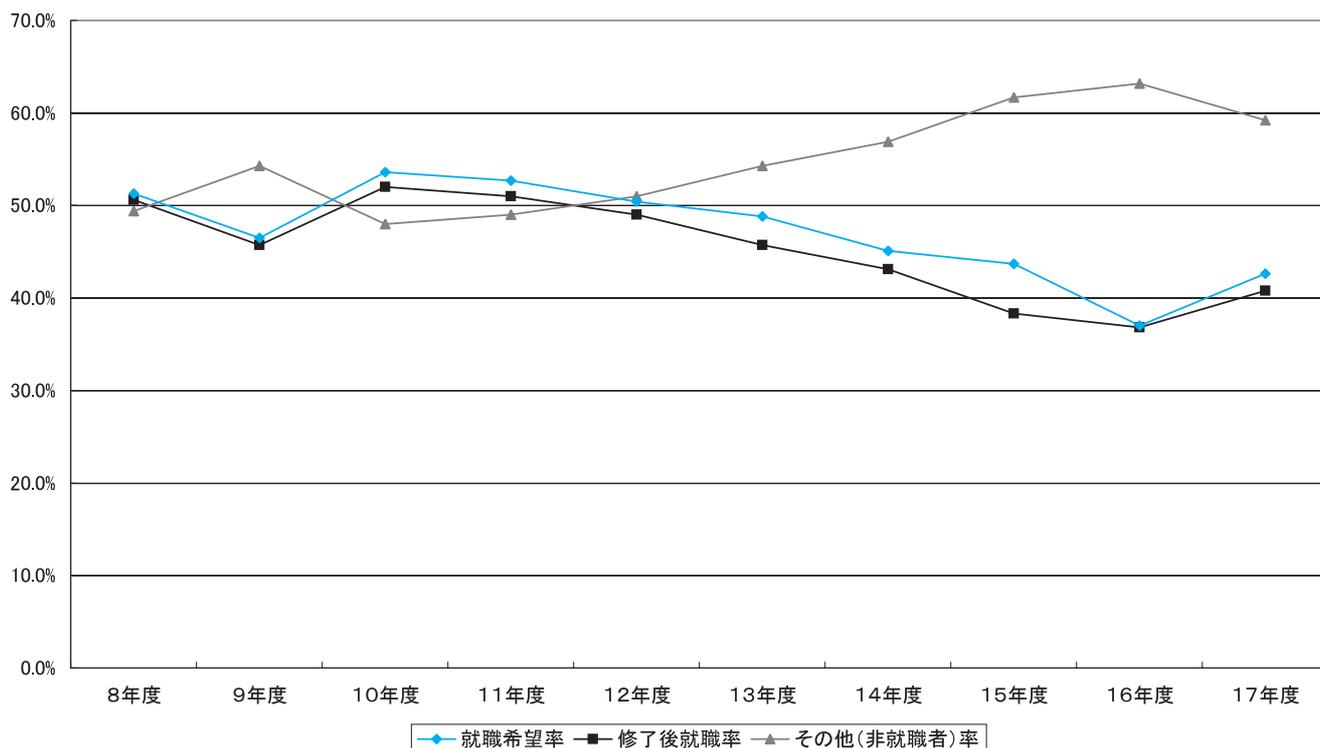


表5

産業別就職者数(平成11年度～平成15年度) 学部及び大学院(修士課程・博士課程)

	学部・大学院別	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
農・林・漁・水産業	学 部				4	1
	大学院(修士課程)	1				2
	大学院(博士課程)	1		1		1
鉱業	学 部	2		1	3	3
	大学院(修士課程)	6	2	1	1	4
	大学院(博士課程)				1	
建設業	学 部	16	16	11	11	10
	大学院(修士課程)	38	60	40	49	80
	大学院(博士課程)	3	8	7	8	5
製造業 計	学 部	265	248	266	212	147
	大学院(修士課程)	523	606	595	599	617
	大学院(博士課程)	73	87	89	85	108
卸売・小売業 計	学 部	42	33	44	37	31
	大学院(修士課程)	10	20	22	21	26
	大学院(博士課程)			2		2
金融・保険・不動産業 計	学 部	266	266	228	194	162
	大学院(修士課程)	71	70	79	86	70
	大学院(博士課程)	3	6	5	2	7
運輸・電気・ガス・水道業 計	学 部	145	131	85	167	57
	大学院(修士課程)	127	102	132	225	67
	大学院(博士課程)	11	9	6	9	3
情報通信業	学 部					129
	大学院(修士課程)					160
	大学院(博士課程)					14
サービス業	学 部	165	201	169	189	123
	大学院(修士課程)	95	151	120	173	132
	大学院(博士課程)	53	70	12	58	92
教育・学習支援業 計	学 部	17	17	9	12	13
	大学院(修士課程)	16	10	21	21	19
	大学院(博士課程)	121	180	187	199	195
公務	学 部	192	177	172	194	184
	大学院(修士課程)	84	109	86	118	94
	大学院(博士課程)	122	150	169	120	19
公共企業体	学 部	9	14	7	4	3
	大学院(修士課程)	12	6	27	1	
	大学院(博士課程)	35	12	76	30	
その他	学 部	78	73	119	76	90
	大学院(修士課程)	57	67	90	74	63
	大学院(博士課程)	34	77	81	79	140

部局 ニュース

大学院総合文化研究科・教養学部

開講100回目を越えた教養学部主催
「高校生のための金曜特別講座」

2002年4月から始まった教養学部主催「高校生のための金曜特別講座」は開講5年目に入り、2006年5月5日には通算100回目を迎えた。この講座は、学校完全5日制に移行した近隣の都立高校の生徒達に土曜日に東大で講義を聞かせてくれないかというPTAからの要望が発端となり、2002年度から「高校生のための土曜特別講座」としてスタートした。高校生たちの進学意欲の向上、進路選択の参考になればと願う教養学部教員たちのボランティア活動として始まったものである。参加費や参加登録は不要。高校生に混じって保護者や教師、一般社会人も聴講している。2003年度からはボランティア活動の形態は維持しつつ教養学部社会連携委員会が責任母体となり、同年度冬学期からは開講日時を土曜日の朝から金曜日の夕方に変更。2005年度には新たに出来た教養学部附属教養教育開発機構寄附研究部門（ベネッセコーポレーション寄附講座）の事業の一環として拡充された。受講者は毎回200名を超え盛況のうちに続いている。



講座風景

第100回目のテーマは「江戸の声」。駒場美術博物館で開催していた「江戸の声」展企画責任者のロバート・キャンベル先生によるギャラリートーク。当日は祝日にも関わらず1階の展示室フロアが満員になるほどの盛況ぶり。江戸時代の歌舞伎や浄瑠璃がいかに庶民の娯楽として普及していたかを当時の印刷物を見せながら流暢な日本語で分かりやすく解説。高校生たちに混じって声楽家の方、江戸文化に興味を持つ老若男女が参加し、活発な

質疑応答が展開された。その前週の4月28日には第99回目として佐藤良明教授による講義「エレキギターは何故しびれるのか：文明論的アプローチ」を開講。それに引き続いて「寺内タケシとブルージーンズ」による「ハイスクールコンサート」が開催され約300人の聴衆を魅了した。

駒場に来ることが難しい遠隔地の高校生に対し、昨年10月からは香川県のe-ラーニング支援機関「e-とぴあかがわ」の協力のもと、インターネットによる講座の多点同時双方向配信の実験を始めた。受信校として協力いただいたのは香川県立丸亀高校、愛媛県立今治西高校、岡山県立倉敷青陵高校の3校。遠く離れた高校から鋭い質問が飛び込み、教養学部会場の高校生を刺激、さらに質疑応答を活発化するなど同時配信による相乗効果が生まれつつある。

本年5月、教養学部社会連携委員会は株式会社アニコ・ジャパンから高校生講座50校配信システムの寄附を受けた。このシステムは高額なテレビ会議システムと違い、一般高校でもインターネットに接続したWindows XPマシンとWebカメラ、USBマイクとスピーカーさえあれば参加できるもの。IDとパスワードの交付を受けた最大50校の高校と教養学部会場が講義と質疑応答を共有するため、遠隔地の高校生も臨場感を持って聴講できる。教養学部附属教養教育開発機構に設置された新サーバーから数校に向けて試験的配信を開始。冬学期からはより多くの高校への配信を計画している。インターネットを活用した新しい高大連携活動に発展させたい。



インターネットを通じて遠隔地からの質問に答える
浅島 誠教授 (5月12日)

高校生たちの質問は時として学部生より鋭く新鮮である。高校生たちに学問の面白さを語ることは講師である教養学部教員にとっても一つの大きなチャレンジ。講師自身がその分野に進んだ理由や学問の現状を分かりやすく語ることは工夫を要する。この講座は教員自身の授業力を高めるファカルティーデベロップメントの機会にもなっている。

講座の内容等、詳しくは「高校生のための金曜特別講座」ホームページを参照していただきたい。(URLは

<http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html> 毎回の講座は本学情報基盤センターの協力によりビデオ収録され、このホームページからVOD化された講座の一部を随時聴講出来るようになっている。この講座をもとに2005年には「16歳からの東大冒険講座」全3巻(培風館)を刊行。2006年末には東京大学出版会から4巻目の刊行を予定している。

過去1年半のプログラムは以下の通り。括弧内は講師の前期課程担当分野名。

●2005年度

- 第75回 4月15日 小林康夫(フランス語)
21世紀の知への誘い
- 第76回 4月22日 佐藤良明(英語)
世界史の中のビートルズ
- 第77回 5月6日 白井隆一郎(ドイツ語)
榎本武揚から見る世界史
- 第78回 5月13日 磯崎行雄(宇宙地球科学)
地球は危険がいっぱい
- 第79回 5月27日 桂 利行(数学)
あみだくじの数理
- 第80回 6月3日 八田秀雄(身体スポーツ科学)
運動の疲労は何が原因だろうか?
- 第81回 6月10日 森 政稔(社会・社会思想史)
民主主義はいまも魅力があるか?
- 第82回 6月17日 安富 歩(歴史学)
中国で環境問題に取り組む
- 第83回 6月24日 尾中 篤(化学)
グリーンケミストリーの考え方と進め方
- 第84回 7月1日 岡本拓司(科学史)
朝永振一郎と湯川秀樹
- 第85回 7月8日 長谷川寿一・村上郁也(心理学)
錯覚一心の不思議
- 第86回 10月14日 松田良一(生物学)
スーパーマンを救えー生物の再生
- 第87回 10月21日 安西信一(英語)
イングリッシュ・ガーデンの裏側
- 第88回 10月28日 Gordon H. Sato
(生物学、米国科学アカデミー会員、招待講演)
アフリカの飢餓と闘う
- 第89回 11月4日 前田京剛(物理学)
意外と身近な物性物理の世界：物理をたのしむ
- 第90回 11月11日 栗栖源嗣(生物物理学)
生物が持つ分子機械の形と働きを見る
- 第91回 11月18日 義江彰夫(歴史学)
日常生活から歴史をとらえ直す
- 第92回 12月16日 森山 工(文化人類学)
異文化理解の想像力
- 第93回 1月13日 安田賢二(生物学)
生命システムの学習と記憶、淘汰と順応

- 第94回 1月27日 北川東子(ドイツ語)
「存在の謎」について考える
- 第95回 2月3日 伊藤亜人(文化人類学)
文化人類学とはどんな学問なのか?
- 第96回 2月10日 川合 慧(情報)
モバイルライフ - 携帯端末考

●2006年度

- 第97回 4月14日 石浦章一(生物学)
頭のよさとは何か、脳を調べて考える
- 第98回 4月21日 トム・ガリー
(サイエンスライティング)
language、languages、そして辞書
- 第99回 4月28日 佐藤良明(英語)
エレキギターは何故しびれるのか：
文明論的アプローチ 引き続いて
「寺内タケシとブルージーンズ」の
「ハイスクールコンサート」
- 第100回 5月5日(休日)午後2時から
ロバート・キャンベル(国文学)
「江戸の声」
教養学部附属駒場美術学物館内にての
ギャラリートーク
- 第101回 5月12日 浅島 誠(生物学)
動物の形づくりの謎を解く
- 第102回 5月19日 大島利雄(数学)
有理数に近い無理数と有理数から遠い無理数
- 第103回 5月26日 小寺 彰(国際社会学)
国際法、そして国際社会とどう付き合うか?
- 第104回 6月16日 真船文隆(化学)
クラスターの科学
一ナノメートルサイズの原子・分子の特異性
- 第105回 6月23日 加藤道夫(図学)
建築図から見た建築の変遷
- 第106回 6月30日 有田 伸(朝鮮語)
韓国の社会と教育制度
ー比較社会学の視点からー
- 第107回 7月7日 松井哲男(物理学)
物質の極限状態ー原始クォーク物質の探求

物性研究所

部局

日米科学技術協力「中性子散乱」 合同運営委員会を開催

6月28日（水）29日（木）に、日本原子力研究開発機構（茨城県東海村）において、日米科学技術協力「中性子散乱」の第24回合同運営委員会が開催された。

日米協力「中性子散乱」は、1980年に日米両政府間で締結された科学技術協力に関する包括協定に基づき、1983年から米国エネルギー省と本学物性研究所（DOE-ISSP）および日本原子力研究所（DOE-JAERI、現在はDOE-JAEA）との間の国際協力研究として開始された。ブルックヘブン国立研究所（BNL）とオークリッジ国立研究所（ORNL）に2台の分光器が設置され、それらを中心とした共同研究が行われてきた。DOE-ISSPでは1983～2005年の間に460編の学術論文が発表され、高温超伝導体、強相関遷移金属酸化物、低次元磁性体、リラクサー誘電体などの分野で輝かしい成果を残している。

今回、DOEからは基礎エネルギー科学局長のP. Montano博士、BNLからはS.M. Shapiro博士とJ.M. Tranquada博士、ORNLからはB. Chakoumakos博士とJ. Fernandez-Baca博士が参加した。日本側からは物性研代表として吉澤英樹中性子科学研究施設長、JAEA代表として藤井保彦量子ビーム応用研究副部門長、他10名が参加した。野田健治JAEA理事の歓迎の挨拶のあと、各組織の代表者から現状説明があった。

会議では、DOE-ISSPとJAEA-ISSPの研究委員から昨年度の報告と今年度の計画が報告され、その後に決算と予算に関する審議が行われた。さらに、ORNLのHFIR研究炉の新しい冷中性子源の建設状況の説明と検討が行われた。この冷中性子源に建造中の日米分光器は来年に稼働し、その強度は国内の同形分光器の100倍に達する見込みである。現在、次世代大強度パルス中性子施設の建設が、日米両国で行われている。日本側からは永宮正治J-PARCセンター長、米国側からはJ. Fernandez-Baca博士が、各施設の建設状況と将来計画について説明を行った。

日米協力「中性子散乱」が始まって20年以上が経過し、それをとりまく状況、とくに関係機関の体制も大きく変化した。それに合わせた協定の抜本的な改定作業の方針が議論され、同時に日米協力「中性子散乱」が今後ますます重要となることが確認された。最後に、Montano博士、吉沢教授、藤井博士が議事録に署名を行い、2日間にわたる会議が終了した。



調印後の運営委員・研究計画委員の記念撮影

部局

大学院理学系研究科・理学部

東大-理研共同核物理国際プログラムの発足

大学院理学系研究科と理化学研究所（理研）仁科加速器研究センターは、「東大-理研共同核物理国際プログラム」を発足させ、それを共同して推進することに6月30日に合意した。

世界最新鋭で最大の重イオン加速器RIビームファクトリー（RIBF）が理研で完成を目前に控えている。RIBFの稼働により、何百種もの天然には存在しない短寿命でエキゾチックな原子核が新たに生成される。本プログラムは、RIBFと、高分解能粒子分析装置（SHARAQ）を始めとする東大の先端的装置を組み合わせた実験研究、さらにそれに関わる理論研究を、国際的な展開の中で一層発展させることを目指している。特に、エキゾチックな原子核の物性、超新星爆発後の元素合成など物質創生の道筋、物質存在の限界等について、研究の画期的な進展が期待されている。さらに、米国を始めとする世界各国との国際的な連携が促進され、東大と理研が重イオンビームによる核物理学で世界を先導する学術拠点として格段に大きな役割を果たすと期待されている。



発足式での小宮山宏総長のご講演

本プログラムは2004年4月に東京大学と理化学研究所が締結した包括的な連携協力協定に基づいて行う最初の本格的な共同事業であり、大型研究施設を有する理研と、人材や多彩な機器などを有する本学がビッグサイエンスの研究を進める新しい方式を模索するものでもある。

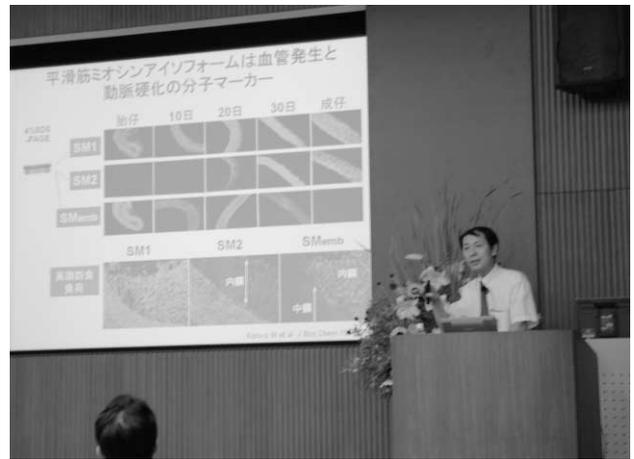
本プログラム発足の合意を受け、発足式典が理学部1号館小柴ホールにて同日開催された。岩澤康裕理学系研究科長、大塚孝治物理学専攻教授（プログラム代表）、矢野安重理研仁科加速器研究センター長からの趣旨説明等につき、小宮山宏総長、大熊健司理研理事（野依良治理事長代理）からお言葉をいただいた。また、岡村定矩理事・副学長も含めた東大、理研3名ずつでの共同記者発表を行い、式典後の懇親会では日本学術振興会国際事業部長深井宏氏らによるお言葉も頂いた。



発足式での大熊健司理化学研究所理事
（野依良治理事長代理）のご講演

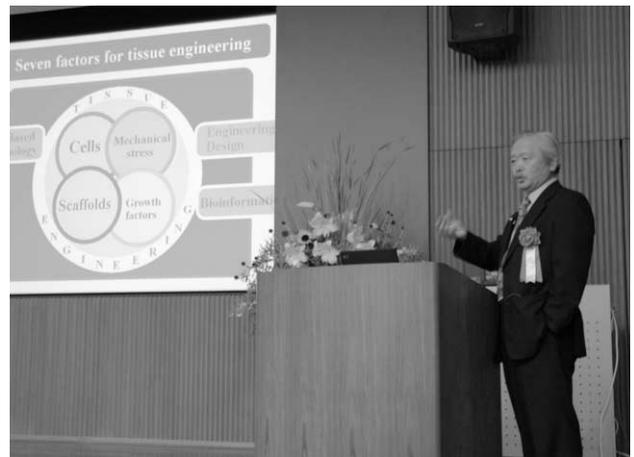
大学院工学系研究科・工学部
バイオエンジニアリング専攻設立
記念講演会・式典が開かれる

本学大学院工学系研究科は、バイオエンジニアリングの戦略的研究開発の推進機能と実行機能の中核を担う人材の育成を目的として、平成18年度4月より国立大学法人初のバイオエンジニアリング専攻を設置した。これを記念して、7月6日（木）に工学部2号館大講堂にて、バイオエンジニアリング専攻設立記念講演会ならびに式典が開催された。当日は、うす曇にも係らず、学内外より260名を越える方々が参加され、新専攻の門出を祝うに相応しい賑やかな講演会・式典となった。



永井良三東大病院長による講演

講演会では、まず、永井良三医学部附属病院院長が「東大病院におけるトランスレーショナルリサーチ」と題して、ご自身のご研究である血管の平滑筋細胞の形質変換、組織再構築、病態形成のメカニズム等の話から現在の医学部での医工連携の施策、トランスレーショナル研究体制まで広範な話題をご紹介された。続いて、物質・材料研究機構生体材料センター長の立石哲也氏が、「医工連携・産学協同の問題点」と題してご自身が切り拓いてこられた再生医療工学の研究の歩みを辿りながら紹介され、現状の問題点と今後の展望を語られた。



立石哲也氏による講演



小宮山総長による挨拶

引き続き行われた設立記念式典では、小宮山宏総長のご挨拶に始まり、松本洋一郎工学系研究科長、さらにご来賓の文部科学省高等教育局審議官 徳永保氏より、バイオエンジニアリング専攻への期待が寄せられた。最後にバイオエンジニアリング専攻長の長棟輝行教授より、専攻設置の趣旨や研究・教育への取り組みについて詳細が紹介された。

その後、山上会館にて懇親会が開催された。平尾公彦前工学系研究科長によるご祝辞の後、立石哲也氏による乾杯となった。懇談の中で、遠方よりかけつけていただいた東北大学工学系研究科副研究科長の佐藤正明教授にご祝辞、暖かいお言葉をいただいた。多くの参加者で賑わう会場は、終始いたるところで歓談が弾み、会は午後8時に盛況のうちに終了した。



記念式典の様子

海洋研究所

海洋研究所一般公開

部局

海洋研究所は、恒例の一般公開を7月15日（土）に中野地区で、海の日7月17日（月）に岩手県大槌町地区の国際沿岸海洋研究センターで開催した。

両地区では、市民講座、所内見学ツアー、パネルによる研究の紹介、実験観測機器の展示、公開実験など様々な楽しめる特色のある多数の催しが行われた。子供からお年寄りまで多様な方々が来場され、各展示を熱心に見学するとともに、スタッフに好奇心旺盛な質問をぶついたり詳しい説明を求めたりする姿も見られた。

中野地区では途中激しい雷雨に見舞われたものの、幅広い年齢層の方々が多数来場され大盛況であった。20余りの研究分野から工夫を凝らした展示や企画が行われ、中でも魚に触れることのできるミニ水族館、電子顕微鏡等の研究機器を見学できる研究室見学ツアー、大気の流れや雨粒の様子を見る模擬実験などが特に好評であった。



展示物を熱心に見学する来場者（中野地区）

大槌地区では、近隣の市町村から約920名もの方々が訪れ、「三陸の海と魚を知ろう」をキャッチコピーに大槌湾の生き物を集めて直接触れることのできるタッチプール、調査船「弥生」の公開など、海を身近に感じる地域に開かれた研究センターとしての雰囲気が感じられた。

また、大槌町役場の協力で、一般公開のお知らせを町内全域に放送していただいたことや、大槌地区の一般公開の様子が地元のテレビで放送されるなど、海洋科学の重要性に関する興味・関心の高さが伺われた。

知識も興味も多様な来場者であったが、両地区のアンケートでは「わかりやすく面白かった。また来たい」、「研究の現場を見ることができてよかった」といった意見が多数寄せられた。

海洋研究所では、海洋科学に関する研究の情報を一般の方々に公開して海洋研究の最前線に触れていただき、研究所への理解を深めていただくために、今後も一般公開をさらに充実して開催していくこととしている。



研究船「弥生」上部デッキに登る子ども達（大槌地区）

7月15日（土）夕方、三鷹国際学生宿舎に居住し、今夏留学生生活を終える留学生の送別会が、院生会（留学生の宿舎生活を支援する日本人大学院学生によるチューター組織）の主催で開催された。同宿舎共用棟で行われた会には、送られる側・送る側双方の留学生、日本人学部学生及び宿舎担当職員など約70名が参加し、明るい雰囲気の中で友人たちの門出を祝った。パーティーではちらし寿司、お好み焼きなどの日本食をチューターと留学生が調理し、様々な国籍の友人たちと談笑しながらの立食会となった。その後は、ニュージーランドの留学生Kevinさんが手品を披露し、彼の見事なカードさばきと絶妙な日本語トークに会場は大いに盛り上がった。



チューターと留学生による調理風景

今回送別の対象となる留学生は41名で、うち22名は、教養学部のAIKOM（Abroad in Komaba）プログラムで昨年10月に来日した留学生である。宿舎の友人たちと語り、アドレス・写真を交換できたことは、留学を終えて帰国、あるいは新しい環境で生活を始める留学生にとって、今後も友人同士の交流を続けていくためのよい機会となった。

最後に日本での生活を振り返ってもらう意味を込め、過去の院生会主催イベントの写真がスライド上映された。歓迎会やハイキング、新年会などの写真を見ながら、思い出深い出来事や自分たちの成長ぶりに、会場からは歓声が上がっていた。

三鷹国際学生宿舎では約600人の学生が生活しており、そのうち約3割を留学生が占めている。居住する日本人大学院学生約30名で組織される院生会と、国際交流に興味を持つ学部学生により、留学生の受け入れやガイダンス、各種イベント等が企画・実行されており、活発な国際交流の場になっている。



立食パーティーの1コマ



留学生Kevinさんによる手品の模様



参加者による記念撮影

大学院薬学系研究科・薬学部

外国人留学生・研究員との交流会開催される

部局

7月19日（水）、18時から、薬学部図書館1階ラウンジにおいて、薬学系研究科・薬学部主催の外国人留学生・研究員との交流会が開催された。

この催しは、留学生・研究員と教職員などが相互の理解を深めることを目的として、毎年9月修了の留学生の論文発表会の夜に開催されている。当日は留学生、外国人研究員、日本人大学院生チューター、有志の学部学生、教職員など、総勢80名が出席した。



参加者記念撮影

堅田副研究科長からみなさんの交流の輪が広がることを期待するとの乾杯と挨拶があり、論文発表会の緊張から解放された9月修了生の留学生のスピーチに続いて、すぐに留学生や研究員の持参した料理が紹介された。順不同で列挙すると、イタリアのペンネ、スイスのチョコレートムース、日本のおはぎ、フランスのブレッド&チーズ、中国の水餃子、アメリカのアップルパイである。毎年の留学生有志による手作りの水餃子は、その準備のために留学生たちは午後一杯を費やすことになっただけに、皆でたくさんのお餃子を堪能することができた。

和やかな懇談のあと、留学生と研究員の新人の自己紹介が行われ、日本人学生による応援団のエールを皮切りにアトラクションが始まった。少林寺拳法の豪快な技に大歓声があがり、弓道のデモンストレーションに会場は沸き立った。続いて留学生を代表して、中国少数民族の笛の演奏があり、やわらかな音色に一同感銘を受けた。最後にブルガリアのダンスを踊る列が波打つと、拍手喝采が送られた。

最後に、東助教授がユーモラスな挨拶で締めくくり、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまい、盛況のうち閉会となった。

日頃は研究活動に忙しい留学生や研究員だが、教職員や学生との親睦を深める良い機会となり、楽しい夏の一夜となった。



葫芦糸（ふるす）の演奏

史料編纂所

中国第一歴史档案館と清代日本関係史料の共同研究プロジェクトはじまる —国際研究集会を開催—

部局

史料編纂所（保立道久所長）では、中国第一歴史档案館との間で同館が所蔵する清代日本関係史料の共同研究プロジェクトを開始することに合意し、7月25日、同館の邢永福（シン・ヨンフ）館長らを招聘して国際研究集会を開催しました。

中国第一歴史档案館は、北京の故宮の中にあり、明・清代の国家档案1000万件を保存する権威ある档案館です。今回、開始したプロジェクトでは、同館が所蔵する清代档案の中から日本に関するものを抽出し、デジタル撮影して画像データの提供をうけ、目録化を進めます。作業は主要な3つのフォンド、すなわち朱批奏摺（皇帝へ提出された上申に、皇帝自身が朱で指示を書き込んだもの）、軍機処録副奏摺（軍機処で作成した朱批奏摺の写）、外務部档案（外交史料）について行い、総計12,000件が見込まれています。



宮崎勝美副所長と特別収蔵庫を見学する一行（左から宮崎副所長、王道瑞研究員、邢永福館長、中国科学院自然史研究所黄荣光研究員、王濊研究員）

提供される档案には、18世紀の日本人漂流民の送還に関する史料から、幕末の派遣船、日清修好条規、台湾出兵、日清戦争、義和団事件など、辛亥革命（1911年）にいたるまでの貴重な日中関係史料が含まれると考えられ、史料編纂所では学内外の中国史研究者らの協力も得て、提供された史料群の研究を進めていくつもりです。

25日の国際研究集会では、双方の所長・館長があいさつしたのち、プロジェクト責任者の保谷徹教授が史料編纂所の中国档案調査の歩みを紹介し、プロジェクトの概要を発表しました。続いて中国第一歴史档案館の王道瑞（ワン・ダオレイ）研究員から、同館が所蔵する日本関係の清代档案について報告があり、活発な議論が交わされました。



研究集会で質疑に応じる邢館長と王研究員（報告者席）

また、研究集会に先立ち、中国第一歴史档案館の一行は総長室を訪問し、小宮山宏総長、古田元夫理事・副学長とそれぞれ面会して、意見を交換しました。

中国第一歴史档案館が所蔵する日本関係史料を総合的に把握する試みは今回がはじめてです。外務部档案をはじめ、これまで未公開の史料も多く含まれており、今後の学術的な成果が期待されます。



談笑する小宮山総長と邢館長（総長室にて）

社会科学研究所

部局

第2回SSJデータアーカイブ優秀論文表彰式行われる

7月25日（火）17時から、社会科学研究所大会議室において、第2回SSJ（Social Science Japan）データアーカイブ優秀論文表彰式が執り行われました。

この行事は、社会科学研究所附属日本社会研究情報センターが運営するSSJデータアーカイブ（注）が提供する社会調査のマイクロデータを分析した2次分析に基づく研究論文を審査し優秀論文を表彰することで、2次分析の奨励、普及を図ることを目的として、平成17年度に実施が開始されました。学部学生、大学院生及び若手研究者（39歳以下あるいは修士課程修了後16年以内を目安とする）を対象としています。

今回の表彰論文には、審査対象となった24点の論文の中から、水落正明（お茶の水女子大学21世紀COEプログラム研究員）「学卒直後の雇用状態が結婚タイミングに与える影響」（優秀賞）、香川めい（東京大学大学院教育学研究科博士課程）「学校から職業への移行形態とキャリア形成」（佳作）、水落正明「共働き世帯における家計構造と家事分担」（佳作）の3点が選ばれました。

利用されたデータセットは、それぞれ大阪商業大学・東京大学社会科学研究所「日本版General Social Surveys 2000-2003」、労働政策研究・研修機構 労働政策研究所「職業と家庭生活に関する全国調査」及び家計経済研究所「現代核家族調査」でした。

当日は、佐藤博樹教授（社会科学研究所）の進行により、はじめにSSJデータアーカイブ優秀論文賞審査委員会委員長・仁田道夫教授（社会科学研究所）から審査講評が述べられた後、受賞者への表彰楯と、利用されたデータを寄託してくれた機関への感謝楯の授与、小森田社会科学研究所長の祝辞、受賞者及びデータ寄託機関からの挨拶と順次滞りなく進行しました。

小森田所長からは、公共財である調査データを寄託してくれた機関に対する最大のお返しは、それを利用して優れた論文を発表することであることが強調され、また、受賞者からは、貴重な調査データを提供するSSJデータアーカイブおよび寄託機関、論文執筆を支援してくれた指導員などへの感謝の念が述べられました。表彰式の後は、ささやかながら懇談の席がもうけられ、和やかなうちに閉会しました。



表彰式記念写真

(注)

SSJデータアーカイブについて

社会科学研究所附属日本社会研究情報センターが運営する事業で、研究機関等からデータの寄託を受けて統計調査や社会調査の個票データ（個々の調査票の記入内容。マイクロデータ）を収集・保管し、その散逸を防ぐとともに、学術目的での二次的な利用のために提供する機関です。

データアーカイブは、欧米諸国のほとんどで設立されており、社会科学の実証研究や教育に活用されています。しかし、日本には従来組織的なデータアーカイブがなかったため、多くの調査が実施されているにもかかわらず、それらの個票データは、当初の集計が終わるとともに放置されているという状況にありました。

SSJデータアーカイブは、こうした状況を打開するために、日本における実証的社会科学研究の基盤を構築することを目的として構築されたもので、1998年4月から個票データの提供を行っています。

なお、近年、SSJデータアーカイブが保有するデータの利用件数が急激な増加をみせています。現在、SSJデータアーカイブの運営のための人的体制は、教員のほか特任専門職員及び非常勤教職員による構成となっていますが、SSJデータアーカイブの安定的な運営のためには、より安定した人的体制の確保が不可欠であり、そのことが喫緊の課題となっています。

医学部附属病院

部局

2007看護フォーラム 看護学生のための「合同就職説明会」において看護師募集を実施

医学部附属病院では、7月30日（日）東京ビッグサイト（国際展示場）で開催された、ナース専科看護フォーラム事務局主催の「2007看護学生のための合同就職説明会」においてブースを開設して就職ガイダンスを行なった。

今回のフォーラムへの参加は、かねてから当院の使命の一つである高度先進医療を担って行くための看護職員の増員が必要不可欠であること及び平成18年4月の診療報酬改定により急性期入院医療の実態に即した看護師配置基準が導入されたことによる配置基準を取得するために必要な看護職員数の確保から大幅な採用増が必要となり、その確保に向けた募集活動の一環として行われた。

当日会場は、各医療機関の説明を熱心に聞く学生達の熱気に満ち、当院のブースにも収まりきれないほどの学生が訪れ、榮木看護部長を筆頭に、救急部医師、看護職員及び事務職員が、来春卒業予定の看護学生達へ本院の魅力を一一人に直接伝えた。

その甲斐もあり、資料配布数及び学生との面談数共に、昨年を大幅に上回り、就職希望者の関心の高さが伺えた。

なお8月10日（木）にも同様に仙台会場に於いて看護師募集活動を行った。



看護フォーラム会場での募集活動（東京）

梅雨明けの7月30(日)・31(月)に見学旅行を実施、日光・霧降高原を目的地とすることにした。今年は59名の留学生のうち22名、国際交流室のスタッフ4名を加えた26名で猛暑の東京を脱出することになった。出発時にちょっとしたアクシデントはあったが、10時に浅草駅を出発して電車で日光に向かった。1日目は東照宮・輪王寺・二荒山神社を見学し、4時ごろ霧降高原のペンションに落ち着いた。夕方からぐっと気温も下がる中、都会の喧騒を離れ、緑に包まれた森の道を散策する者、小鳥のさえずりを聞きながらテラスで語り合う者と参加者はそれぞれの時間を楽しむことができた。夕食後のレクリエーションタイムでは恒例のフルーツバスケットやゲームを楽しみ、皆童心に返ったように盛り上がった。



頂上での集合写真。リフトを乗り継いで来たため、まだまだ余裕の表情

2日目は霧降高原丸山ハイキングコースに挑戦。リフトに乗って400mほどの標高差を一気に登ると気温は急に下がり、ひと時の涼を楽しむことができる。事前に日光自然博物館に問い合わせコースの状況を確認したが、普通の人が歩くコースであり体力も必要がないとのコメントであったために全員参加は問題なしと考えた。しかし、これが甘かった。頂上まではリフトを3回乗り継ぎ、名前の通り霧の立ち込めるすがすがしい山肌と色とりどりの植物を楽しむことができたが、下りは足場の悪い急勾配であるため落下しないように互いに手を貸しながら斜面を降りる羽目になってしまった。リフト乗り場にたどり着いたとき、いたるところで安堵のため息が漏れた。しかし、博物館から来てくださったガイドの方の丁寧な説明と、大きな荷物を苦にもせず持ってきてくださったガイドさんの手作りの資料のおかげで高原の魅力を満喫することができた。

毎年支給される見学旅費は、研究室に缶詰になりがちな留学生の日々に潤いを与えると共に、日本の文化にふれる機会と広く友人を作る機会の創出に資すると確信している。



下山の様子。森の清々しさを満喫しながら、説明に耳を傾ける

8月2日(水)13時より、農学部1号館2階8番教室において、平成18年度大学院農学生命科学研究科外国人留学生との懇話会が開催された。大学院農学生命科学研究科には、中国、韓国を始めとするアジア諸国、中近東、アフリカ、北米、中南米、ヨーロッパの31の国と地域の総勢182名の留学生が在籍している。

当日は、長い梅雨が明け、一気に夏らしくなったむし暑い日にもかかわらず、留学生、外国人研究員、教職員、関係の日本人学生等を含め、90人を超える参加者があった。佐々木国際交流委員長の挨拶で懇話会は始まった。會田研究科長も出席され、ニールム国際交流室講師の司会進行で、7人の外国人留学生による自国紹介や日本での体験談、3人の日本人学生による留学経験等の紹介があった。ほとんどがパワーポイントを使いながらの説明で大変わかりやすかった。エジプト、ハイチ、バングラデシュの留学生は、母国の歴史や魅力を、インドの留学生は古代インドの驚異的な科学を、別のバングラデシュの留学生は日本での日常生活でのエピソードを、それぞれ紹介した。フィリピンの留学生の説明はBGM付きだった。さらに、彼はグループで自国の歌を紹介した。ミャンマーの留学生のグループも民族衣装を着て、民族楽器を演奏しながら珍しい歌を紹介した。日本人学生の説明は、全員英語で、二人がそれぞれアメリカとドイツでの留学中のエピソードを紹介、もう一人は、外国語を学習する際の問題点などを自身の経験から話した。

10人の演者で2時間の予定はあっという間に経ち、長

戸国際交流室員の閉会の辞で、懇話会は幕を閉じた。

さらに、18時から農学部生協食堂で懇親会が開催された。會田研究科長の挨拶があり、作田国際交流室員の乾杯の音頭で開始した。日ごろ、農場、演習林など、弥生地区以外に分散している留学生も多いため、この会は、みなが顔をあわせる貴重な機会で、120名を超える参加者は、時間の立つのを忘れて懇談した。19時半すぎ、佐々木国際交流委員長の挨拶で閉会となった。



研究科長、国際交流室スタッフと懇話会出演者の皆さん



歓迎会での記念写真

大学院工学系研究科・工学部 情報理工学系研究科

東京大学イアエステ (IAESTE)
研修生歓迎会行なわれる

8月3日(木)午後7時～9時、山上会館一階談話ホールにて、平成18年度イアエステ (IAESTE) 研修生歓迎会が開催されました。IAESTE (International Association for Exchange of Students for Technical Experience) とは理工農薬系学生の国際インターンシップ制度で、今年度は東京大学全体で11名を工学系研究科、情報理工学系研究科、生産技術研究所、先端科学技術研究センターにて受け入れています。当日は研修生の他、受入教員、ホストファミリーの方々、サポートの日本人学生にも参加を呼びかけ、塩谷教授 (IAESTE理事、東京大学IAESTE委員会委員長) の司会により、松本工学系研究科長挨拶、武市情報理工学系研究科長の乾杯の発声のち研修生の自己紹介も交え2時間に渡り歓談が行われました。当日は梅雨明け直後の酷暑の日でしたが若い研修生たちは夏バテの気配も無く、日本での有意義な研修と貴重な体験、人脈作りに向けスタートをきりました。

なお、IAESTE研修制度は今年度全国で約70名の外国学生をインターン生として企業中心に受け入れており、同数の日本人学生が海外に研修に行けるという制度で、18年度は東大生10名が認定試験に合格して海外に派遣されることになっています。

大学院医学系研究科・医学部

国際シンポジウム
「倫理コンサルテーションの現状と展望」

生命・医療倫理人材養成ユニットは、8月5日(土)、ケース・ウェスタン・リザーブ大学 (アメリカ・オハイオ州) と共に国際シンポジウム「倫理コンサルテーションの現状と展望」を開催した。倫理コンサルテーションとは、臨床現場で生じる倫理的問題に対して、医療者や患者とその家族がより良い意思決定を行えるよう、倫理コンサルタントが助言を与える仕組みである。倫理コンサルテーションをいち早く行っているアメリカとその必要性を強く感じる日本、両国の専門家による対話を通して、倫理コンサルテーションのあり方を模索した。シンポジウムへの参加者は、大学教員、医療従事者、医薬品及び医療機器関連企業の関係者、メディア関係者、理系・文系の学生など200人を超えた。

シンポジウムは二部構成で行われた。第一部では、日米で倫理コンサルテーションに取り組んでいる専門家が、その現状や教育システムなどに関する報告を行った。日本側の報告では、大学病院や一般病院での先駆的な取り組みが紹介され、アメリカ側の報告では、倫理コンサルテーションの歴史的背景や、その実践や教育に関する現状と問題点が報告された。また、第二部では、高齢のアルツハイマー病患者の治療方針をめぐる患者の家族と医療者の意見が対立する症例に関して、模擬の倫理コンサルテーションが行われた。担当医からの依頼に始まり、倫理コンサルタントによる担当医と家族のインタビュー、そして担当医への助言に至るプロセスモデルを紹介した。日米の専門家のアプローチの方法、助言内容について、フロアの参加者と共に意見交換を行うことにより、倫理コンサルテーションのプロセスや考え方について議論することができた。日米それぞれの法的な枠組みの中で考え方や価値観の違いはあるものの、倫理コンサルテーションは患者本人の意向を尊重するためのコンセ

ンサスの形成を目的とするという共通理解を得ることができた。



パネリストと、生命・医療倫理学の集中コース受講者

大学院教育学研究科・教育学部

附属中等教育学校で学校紹介フォーラム開催

中野区にある教育学部附属中等教育学校で8月27日、関東地区の国立大学附属高校9校による学校紹介フォーラムが開かれた。これは毎年いずれかの高校で行われている企画で、生徒が中心となってそれぞれの学校を紹介するというもの。今年度は会場が東大附属だったので、実行委員長は本校5年生の谷本江里奈さんが務めた。ちなみに副実行委員長を務めたのは東工大附属高校とお茶の水女子高校の生徒。何回も事前ミーティングを行い当日に備えた。そういった意味では高校生同士の交流があったと言える。



当日の様子

フォーラムは盛況で、朝早くから入学を希望する中学生とその保護者が学校に詰め掛け、今年度は小学生の姿も見られた。体育館で開会式が行われた後、大教室、多目的室の3つの会場で生徒によるパワーポイントを使っ

たダチョウの写真の展示など、さまざまな優秀さを持つ高校生たちの祭典という印象を受けた。

地震研究所

インドネシア科学院 副理事長来所

近年インドネシアでは地震・津波災害が多発している。スマトラ沖では2004年12月にM9.0、2005年3月にM8.7の巨大地震が、ジャワ島でも2006年5月にM6.3、7月にはM7.7の地震が発生し、大きな被害をもたらした。日本学術振興会との会議のため来日していたインドネシア科学院 (LIPI) 副理事長のLukman Hakim教授は、8月29日 (火) 午後、地震研究所 (所長：大久保修平教授) を訪問し、地震・津波等の研究に関するLIPI・東京大学間の共同研究の可能性について強い興味を示した。意見交換の結果、手始めに地震・津波等を専門とする両国の研究者を集めたワークショップを開催するため、今後必要な調整を進めることとなった。

LIPIは、インドネシアの科学研究を一手に担う大統領直属の研究機関で、4,000名を超える職員を擁し、政府全体への科学技術に関する助言と提言、社会科学を含む試験研究の実施、科学技術情報の提供、工業標準の作成など幅広く活動している。またアジア学術会議では日本学術会議のカウンターパートとなる機関でもある。



左から大久保所長、Aries課長、Hakim副理事長、Sintawardani協力推進部長

今回の訪問では、国際室の加藤照之教授やインドネシアを研究フィールドとする都司嘉宣助教授及び金子隆之助手から、インドネシアとの協力関係、2004年スマトラ地震・津波の教訓や、衛星画像による火山監視研究などについて、それぞれ紹介を行った。

LIPIは、最近、京都大学、東北大学、千葉大学、広島大学等の日本の大学と連携を強化している。また相次ぐ自然災害のため、インドネシア大統領から防災対策を強

化するよう特に指示があるという。このため、Hakim氏は、地震・津波の分野で社会科学も含む包括的な研究協力を東京大学と行いたいという積極的な姿勢を示した。

これに対し、大久保所長から、地震・津波研究は協力のコアになる部分であり、その実現に向けて努力したいと述べた。

Hakim氏は2003年からLIPIの副理事長を務めているが、1994年に東京大学で科学技術政策の博士号を取得されており、今回「赤門」を再訪するのが楽しみだったとのことである。



LIPI側の発表。津波災害の軽減のため、Padang市の津波マップを作成している

大学総合教育研究センター

野村証券と「大学の財務基盤の強化に関する共同研究」を開始

大学総合教育研究センター（センター長：岡本和夫）は野村証券株式会社（執行役社長兼CEO：古賀信行）と日本の大学の教育研究の競争力を強化するために、本年9月1日より今後3年間にわたり大学の財務基盤の強化に関する共同研究を開始した。

日本の大学の教育研究の競争力強化は、一国全体の競争力そのものにも直結する重要な検討課題として注目されている。また、こうした教育研究の発展のためには、あらためていうまでもなく財務基盤の強化・充実が不可欠であるが、現在の日本の大学は急速な少子化の進展や政府の補助金削減などの厳しい環境変化に直面しており、大学の安定的な発展を担保すべく、中・長期的な観点からより積極的な財務手段を講じる必要性が高まっている。

米国では、アカデミズムと実務の観点からの大学の財務運営に関する研究が盛んに行われており、その成果は大学の現場レベルの財務運営や政府の政策立案に大きな影響を及ぼしている。これに対し、日本では研究者と実務者が共同でこうしたテーマに取り組むこと自体がほと

んどみられない状況であった。

そこで、同共同研究は、米国及び日本の大学の経営に関する学術的な成果や金融・資本市場の活用に関する実態の両側面をふまえつつ実態調査を行い、日本の大学が財務運営に取り組む上で参考に資する知見やアイデアを提示するとともに、政策提言も積極的に行うことを目指している。

本学のアクションプラン2006年度改訂版の中でも、基金の確立・発展やそれらを活用した若手研究者の支援の充実が目標の一つに掲げられており、小宮山宏総長は「たとえば優秀な研究者・学生の獲得に研究資金や奨学金の充実が不可欠であり、そのためにも財務基盤の強化は大学経営にとって不可欠なテーマ」と同研究への期待を表明している。

今後は、基金の活用や授業料設定と学生支援戦略、外部資金の獲得と活用、施設整備と管理等といった大学の財務システムの分析に関する研究テーマに逐次取り組んでいく予定である。

大学院教育学研究科・教育学部

130名の児童が附属中等教育学校の体験授業で中学生気分を1日味わう!!

9月2日(土)に教育学部附属中等教育学校において、本校への入学を希望する小学5・6年生を対象にした体験授業を行なった。体験授業は、今年度が初めての取り組みで、本校の教育実践をアピールする場として企画したものである。

児童は事前に選択した「いかの解剖」「立体を作る」「手作り分光器を作る」など10の講座に分かれて、2時間の授業を受けた。児童の感想には「難しいが、丁寧に教えてもらったので、わかったときは嬉しかった」という感想が多かった。中学生の教科学習の雰囲気を感じ取ってもらえたようだ。

また、保護者には授業に並行して学校説明会と在校生によるパネルディスカッションを行なった。特に「生徒の声を直接聞けたので、単なる学校説明会やパンフレット以上にとっても説得力があった。」「生徒たちは学校生活を楽しんでいて、学校を誇りに感じていることがよくわかった」という保護者の感想が多く、パネルディスカッションはととても好評であった。



情報の授業の様子



体育の授業の様子

ニュースページ、インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者とおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 提出先

総務部広報課

E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

3. 締切日

原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。

4. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
- ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

- ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
- ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
- ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「,」「.」は用いない）。
- ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。

5. 問い合わせ先

総務部広報課広報企画チーム

TEL : 03-3811-3393 内線22031

E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

東京大学アクション・プラン2005-2008

2006年度改定版の公表について

東京大学アクション・プランは、小宮山総長の4年間の任期中に、「時代の先頭に立ち、世界の知の頂点を目指す東京大学」を実現するための重点課題について、教育、研究、国際的活動、組織運営、財務、キャンパス環境、情報発信と社会連携という7つの柱ごとにまとめたものです。このたび、昨年のプランの達成状況を踏まえ、さらに発展させたものとして、東京大学アクション・プラン2005-2008〔2006年度改定版〕を公表いたしました。

今回は、2006年度改定版の公表にあたっての、総長メッセージを掲載いたします。また、次回、No.1343（9月27日発行）の学内広報の特集において、アクション・プランの内容および昨年度の達成状況を紹介いたします。

東京大学アクション・プラン2005-2008〔2006年度改定版〕の公表にあたって

東京大学総長 小宮山 宏

このアクション・プランは、総長としての私の任期中に、「時代の先頭に立ち、世界の知の頂点を目指す東京大学」を築き上げていくという目標を実現するための鍵になると考える項目を、私のいわば決意表明として、昨年はじめて公表したものです。その折に、プランに掲げられた諸項目は、東京大学を取り巻く状況の変化や大学内外からのご指摘を受け止めながら、さらに内容を進化させていくものであると述べておきましたが、ここに、昨年のプランをさらに発展させた2006年度改定版を公表します。

アクション・プランという形で、これからのあるべき大学を築いていくための目標を作り、その目標達成のための戦略を立てていくという試みは、この一年の間に着実にすすめてきたと考えています。プラン実行の初年度は、変化の動きを全体に及ぼす呼び水となるような取組みを、さまざまに「実験」してみました。その中で発見できた重要なことは、こうした積極的な姿勢をとることで、課題を実現するための制度的・財政的な諸条件、あるいは実現に携わる人々の意識が、どんどん変わっていくということです。大学法人化前の制約の多い状況を所与のものとしていては、これからの大学の姿は見えてきません。夢をもって理想の大学に向けて努力し、それを社会に大胆に意思表示していけば、大学を取り巻く環境条件も良い方向に変化させ、大学改革の大きな歯車をまわし始めることができるのです。

東京大学は、非常に複雑で大規模で重層的な組織です。取り組むべき多くの課題が複雑に絡み合っており、それらに一義的な解をただちに見つけられるわけではありません。ただ、このアクション・プランに掲げた項目の実現に向けて取組みを重ねる中で、自律分散と全学協調の仕組みをうまく動かしていけば、東京大学という組織にもっとも適切な解を生み出す力が自ずから高まっていくものと考えています。産業界や大学OBをはじめ学外からも、こうした大学の取組みに支持がなされていることも、大変心強いことであると思っています。

社会は、活力溢れた大学の登場を待ち望んでいます。このたびのアクション・プランの改定を機会に、大学改革の実現に引き続き努力し、これからの日本の高等教育を支える東京大学を作り上げるために全力を傾注する決意を、改めて明らかにしたいと思います。

東京大学アクション・プランに関するお問い合わせ：総務部企画課秘書企画チーム
TEL:03-5841-2393 FAX:03-3813-3163 E-mail:kikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※総務部企画課では、改定版の公表に合わせて、パンフレット及びポスターを作成し学内外への配布を行っております。

アクション・プランの詳細及びパンフレットにつきましては、東京大学ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。
(http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/b01_07_j.html)

さすてなTimes

新しい風は新しい組織から

武内和彦
サステナビリティ学
連携研究機構副機構長

サステナビリティという言葉の認知度はまだまだ低いと思っていましたが、最近はそうでもなさそうだと感じています。私たちは、サステナビリティ、サステナビリティとさかんに言いつつ、一般の人には通じにくいかなと遠慮がちに使うこともありましたが、しかし、環境に関心を持っておられる人たちの多くは、すぐにぴんとくるか、「聞いたことあるような気がする」と言って、「持続可能性のこと」と説明とすると理解してくれます。また、「ロハス (LOHAS)」のSはサステナビリティと言えば、意外と流行の言葉だと分かってもらえます。

東京大学が中心に、参加5大学、協力4機関のネットワークによるサステナビリティ学連携研究機構が今年の4月に本格的な活動を開始しました(学内報No.1341で紹介)。この機構を立ち上げるにあたっては、サステナビリティ学を日本語にしたらどうかという議論もありました。そのまま訳せば「持続可能学」となりますが、これはいかにも翻訳文化風で、かえってよくわかりません。京都大学ではほぼ同様の内容に対して「生存基盤学」という名称を冠し、東京大学は「地球持続学」と言っていました。両者を合わせて「持続的生存基盤学」という案も出ましたが、漢字ばかりで堅すぎます。結局、サステナビリティ学とした方が、この学問の持つ多面性を表せるのではないかということになりました。この名称がそのまま社会に定着するのか、いずれ日本語化されるのか、サステナビリティ学連携研究機構のこれからの活動によるのでしょうか。日本やアジアの社会の新しいあり方を私たちが提示して、多くの方々が共感を持ってくださるのなら、それにふさわしい言葉がぽっと生まれ出てくるかも知れません。

社会にはサステナビリティ実現に向けた追い風が吹き始めていると感じています。私たちサステナビリティ学連携研究機構は学術研究のサイドから、その風を確かな方向性を持ったものにしていきたいと考えています。地球社会のよりよい未来を構築するには、これまでにない柔軟な発想と、分野横断的な学術交流が必要です。分野融合はこれまでもさまざまに試みられながら、成功した例はそう多くありません。今度こそは成功させないことには、それこそ地球の未来は見えてきません。私たちは真の研究ネットワークを成功させるための冒険に挑みます。この新しい機構が、新しい風を生み出す組織になることを願っています。

調達本部です



第14回 UT購買サイトの利用促進に向けて

早いもので、UT購買サイトもオープンから3ヶ月が経りました。正直いって、全学的な利用状況はいまだに「試し撃ち」程度の感触にとどまっております。ただ、その中であって、ここ「本部」だけはUT購買サイトで購入可能な物品の殆どに利用されていると見られる実績が出ています。(本部の3ヶ月実績は約719万円であり、当初の年間利用見込み3,500万円と対比すると9割以上をカバーしている)その理由としては、本部内の会議で「経費節減のためUT購買サイトの利用を徹底すること」を申し合わせたことのほか、本部で昨夏以来、WEB発注の試行が行われたことが考えられます。つまり、逆にいうと今回初めてWEB発注に挑むこととなった各部局においては、まだ多くの発注者が利用の前提条件となるWEB上の手続きにとまどっておられるように思われます。

特に、財務会計システムとの一貫処理を可能とするための「会計情報コード」の設定が煩わしく感じることで、世の中のショッピングWEBサイトほどには「検索性」が充実していない、という2点に大きな不満が集まっているように感じています。

会計情報コードの設定は、発注者の部署コードなど4項目について、それぞれ①一覧リスト→②検索による絞り込み→③特定項目の選択の作業を行って頂くもので、49桁という見かけほどに複雑怪奇なものではありません。ただ、この種の作業に不慣れな方のために、個々の発注者に代わって、部局の事務の方による入力を原則とする方向に切り換えていくことで解決を図りたいと考えています。検索性については、買いたい物品に少しでも関係のある用語から辿りつけること、また、ひらがな・カタカナ・漢字、英数の全角・半角といった多様な入力文字で商品にHITするような機動性効率性を高めることが改善のポイントと理解しています。この部分はシステムのお値段とも関係してきますが、早期にできるだけ改善を図りたいと考えていますのでご期待下さい。

近いうちに改善策を取りまとめ、あらためて全学に周知を図りたいと考えていますが、その間も調達グループに開設した「ヘルプデスク」を活用しつつUT購買サイトの利用促進にご協力いただきたいと思っております。

東京大学
UT購買サイト
UT Cobuy Site
—教職員・公務専用—
6月1日オープン
<https://u-tokyo.cobuy.jp/>

※以下のとおりお問い合わせ・連絡にお願いいたします
先 文 室・事務課 専任スタッフ(業務時間内)・情報システム課
東京大学教職生活協会の「情報トレーニング」・パソコンセンター
センターから「お電話」または「メール」でお問い合わせください
センター・リコー 専任 (土日祝)
システム管理：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ

お問い合わせ
情報調達グループ 企画・総務課 (平日9時～17時)
TEL: 03-5561-2214 (内線2210)
E-Mail: kikaku-buppin@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
掲載情報: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gskamu/itcg/cobuy/>

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

大学発ベンチャー支援対象企業募集

東京大学で生まれた「タネ」を社会に大きく育てたい!

東京大学は、研究の成果を普及し、その活用促進を図るべく、本郷キャンパス内に大学発ベンチャー企業（起業）支援施設「**東京大学アントレプレナープラザ**」を建設することになりました。国立大学法人法第22条（国立大学法人の業務の範囲等）にも明記のとおり、＜研究成果の社会還元＞は東京大学の使命のひとつでもあり、そのための重要な役割を担う大学発ベンチャー企業に対する支援もまた東京大学にとって重要な課題です。

全学的な大学発ベンチャー支援は、産学連携本部に加え、資金及び会社運営をサポートする（株）東京大学エッジキャピタル（UTEC）、並びに特許権等のライセンスを担う（株）東京大学TLO（CASTI）の三者（**東大産学連携チーム**）によってなされています。

「東京大学アントレプレナープラザ」
本郷キャンパス内 産学連携プラザ隣り
2007年6月オープン予定



建物概要：地上7階建て、延べ床面積約3,600㎡。各室約58㎡、各階5室、合計30室(2~7階)を有し、バイオ系を含む実験室(ウェット・ラボ)としての利用が可能です。

「**東京大学アントレプレナープラザ**」は、来年（2007年）5月竣工、6月オープン予定です。つきましては、オープンに向けて**支援対象企業の募集を開始します**ので、東大産学連携チームからの支援をご希望・ご検討される方は下記までご連絡ください。

（連絡先）

産学連携本部事業化推進部

特任助教授 白石 敬仁

TEL：03-5841-2358（内線22358）

産学連携課 総務チーム

TEL：03-5841-1489（内線21489）

連絡先：産学連携本部（研究協力部 産学連携課）

電話：内線22857（外線03-5841-2857）

ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

知的財産部からのお知らせ

発明届の早期提出のお願い

本年度も半ばを目前にしたこの時期、研究成果を学会発表・論文投稿等なされる準備で益々お忙しくなる方も多いかと思えます。公表する研究成果の内容に発明が含まれる場合、当該公表によって発明が公知となり特許化が困難になってしまうケースがあります。特許法第30条の新規性喪失の例外規定の適用では、認められる条件、国等に制約がありますので、公表前に特許出願することが最善です。

ついでに、研究成果を公表する予定がある場合には、速やかに発明届を所属部局へご提出願います。部局で職務関連発明と決定された案件を知的財産部で受理した後、承継判定から出願までに通常少なくとも一ヶ月程度を要します。貴重な発明に関し、十分な技術調査、マーケティング活動等を行った上で正当に評価し、優れた権利とするための明細書作成に必要な時間が確保できるよう、可能な限り早めに発明届出書を提出いただくようお願いいたします。

（連絡先）産学連携本部（研究協力部 産学連携課知的財産マネジメントチーム）sangaku2@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

イベント報告とお知らせ

◇報告 常時発表者募集・随時開催「産学連携提案会」
8/29：「からだシステム研究会」/総合文化研究科 跡見順子教授 を実施し、25法人にご出席頂きました。産学連携本部では、産学連携の企業のパートナーをお探しの研究者向けに、「シーズ実用化提案会」、「プロジェクト提案会」を随時開催していますのでご活用ください。

◇報告 「第6回科学技術交流フォーラム（バイオマス）」(7/27)

東京大学産学連携協議会では、「解を出すべき課題」について産学連携で取り組む契機を創出するために科学技術交流フォーラムを年数回開催しています。本年度1回目の7月は、小宮山総長からの産業界への提案に続き、迫田教授（生産技術研究所）、五十嵐教授、横山教授、川島助教授（農学生命科学研究科）からバイオマス研究の現状を講演していただきました。産業界から133名の出席があり、盛況でした。



バイオマス・ニッポンを力説する小宮山総長

◇ご案内 2006年度 産学連携セミナー（9/29《金》）
テーマ：共同研究の新スキーム『Proprius21』とその実例（死蔵ソフトウェアの社会への還元）

※ソフトウェアの製品化・社会還元に関心をお持ちの方は、この機会にご参加ください。

URL：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ss/seminar/>

七大戦・国公立大会特別号

全国七大学総合体育大会

全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」は、北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大の旧帝国大学七大学で行なわれる総合体育大会です。各競技の順位ごとに得点が与えられ、全競技の合計得点で優勝校を決定します。

昭和37年の第1回北海道大会以来とだえることなく毎年開催され、今回の大阪大会で第45回を迎える七大戦は、学生による自主運営の下、真のアマチュア리즘追求の場として発展してきました。スポーツにひたむきに打ち込む学生たちにとっては、各競技の振興と全国の同志たちとの親睦も大変有意義なものとなることでしょう。

選手たちの健闘を讃え、秋を迎えていよいよ大詰め

の七大戦を応援しましょう。

大学名 (現段階の順位)	主な優勝種目
北海道大学 (1)	アイスホッケー、水泳女子、 バドミントン女子、弓道男女、 バレーボール男子
東北大学 (5)	柔道、バスケットボール女子
東京大学 (7)	陸上男子、ラクロス男子
名古屋大学 (3)	硬式テニス男子、陸上女子、 硬式野球、ハンドボール、航空、 バスケットボール男子
京都大学 (4)	水泳男子、ラクロス女子、 フェンシング、軟式テニス女子
大阪大学 (2)	スキー、硬式テニス女子、空手、 少林寺拳法、剣道男子、 準硬式野球、軟式テニス男子
九州大学 (6)	馬術、ヨット、バレーボール女子、 バドミントン男子、剣道女子

七大学の現段階までの順位と優勝種目一覧です。昨年度は主管校の九大の優勝という結果でしたが、今年は北大がホームの阪大を押さえて首位を独走しています。ちなみに本学は総合では残念ながら7位となっていますが、この他スキー、柔道、空手など9種目で3位までに入賞しています。

東京地区国公立体育大会

東京地区国公立大学体育大会、通称「国公立大会」は、東京地区の国公立大学の体育活動の発展と学生相互の親睦を目的とする大会です。毎年、参加大学が当番制で開催しており、七大戦と同様、学生主体で運営されています。第54回の今年

は本学が当番校、東京外国語大学が副当番校です。参加大学は12校、開催競技は20種目。白熱した戦いの中で日頃の努力の成果を競いあう若者たちの活躍を、どうぞお楽しみ

競技種目	男子優勝校	女子優勝校
陸上競技	東京学芸大学	東京学芸大学
水上競技	(競泳)一橋大学 (水球)東京大学	東京学芸大学
硬式野球	東京学芸大学	
準硬式野球	一橋大学	
硬式庭球	一橋大学	東京大学
軟式庭球	なし(雨天中止)	東京外国語大学
バスケットボール	一橋大学	東京学芸大学
バレーボール	東京大学	お茶の水女子大学
サッカー	首都大学東京	
ラグビー	東京学芸大学	
卓球	東京学芸大学	東京学芸大学
バドミントン	東京学芸大学	東京農工大学
柔道	東京学芸大学	
剣道	東京大学	
ハンドボール	東京学芸大学	
空手	東京大学	一橋大学
ヨット	9/29開催予定	
弓道	一橋大学	一橋大学
スキー	2007年3月上旬開催予定	
ゴルフ	一橋大学	

本学はこの他、団体ではハンドボール、硬式野球、ゴルフなどの6競技で準優勝。個人では弓道男女、柔道3階級、陸上5種目などで優勝しています。

※全てのデータは9月4日現在のものです。

連絡先: 学生部学生課体育チーム 連絡先: 03(5841)2510 taiiku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

コミュニケーションセンターだより No.21

■7月から発売の東大サプリメント売れ行き好調！！

7月からの東大サプリメントが、大変ご好評頂いております。7月から発売し、5191個販売しました。8月6日TBS「夢の扉」に紹介され電話問い合わせも殺到です。

体力式アミノ酸についてはすでにリピーターがいるなどコミュニケーションセンターファンが急増中！？です。ネットの注文も増加し学生スタッフは発送準備で大忙しです。

<販売実績>

販売集計期間	7月1日～9月9日
体力式アミノ酸	4071個
乾杯式アミノ酸	1120個



アミノ酸とは！？

人間の身体は水分を除けば、ほとんどがたんぱく質からできています。内臓や筋肉、消化管などを作り、血中のヘモグロビンや髪の毛、皮膚からDNAに至るまで生命に不可欠な部分のほとんどがたんぱく質です。しかも、人間の体を構成するたんぱく質の種類は10万種類。そして、DNAの指示で約20種類のアミノ酸を様々な組み合わせによりたんぱく質をつくりだしています。人間に必要なアミノ酸20種類のうち9種類が人間の体内では合成できない「必須アミノ酸」です。必須アミノ酸をバランスよく配合したのが「体力式アミノ酸」、また、お酒を飲む方に最適な2種類のアミノ酸を配合したものが「乾杯式アミノ酸」です。

<お詫び>

この度は、体力式アミノ酸がお品切れになってしまい誠に申し訳ございません。次回入荷は9月20日となっております。今しばらくお待ちくださいませ。

■8月2日オープンキャンパスにて駒場に出店して参りました！！

ご好評頂き無事終わることができました。駒場キャンパスの関係者の皆様誠にありがとうございます。次回駒場出店は、駒場祭の予定でございます。よろしくお願い致します。

夏休み中も、観光のお客さまを中心にセンターは大賑わいでした。高校生をはじめ一般のお客様が東大に足を運んで下ることは大変嬉しく思います。また、OBの方も多くお越し頂き東大の歴史などを教えて下さるのでセンタースタッフ一同日々勉強になります。

(担当：コミュニケーションセンター 辻)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp



第3回

～広報センターより～



嬉しいお便り いただきました♪

「広報センターの英語表記は、Information Centerです。求める情報が個人ごとに違うのでマニュアルはありませんが、とりわけ団体見学で訪れた方々へのご案内をどのようにするか日々思索しています。

中学生、高校生の皆さんには、学部の講義要項や入試問題実物など資料閲覧のお勧めはもとより、歴史ある文化的なキャンパスをたっぷり楽しんでいただきたいと考え、「東京大学豆知識」と銘打ちまして、構内の見どころなどをお話ししております。大勢の方の前ではかなり照れくさいのですが、そこはエヘッ！と度胸を決めて大声を張り上げています。ただ、皆さんを送り出したあとには「説明は上手く出来ていただろうか…」と不安が残ってしまいます。

そんな折、先日のごことです。都内の私立高校の先生と12名の男子生徒さん（来館された全員）から嬉しいお手紙を頂戴しました。その一枚一枚には、初めて東京大学を訪れてみて「一番印象に残ったこと」<驚いたこと>「圧倒されてしまったこと」<嬉しかったこと>「これからの目標や意欲」など、それぞれの想いが丁寧に綴られてありました。こちらのつたない説明にも充分耳を傾けてくださったようで、先生は「遠い世界の大学と思っていたところが、身近に感じられるようになったようだ」と書いてくださいました。

お客様からの「ありがとう」とその笑顔は、広報センターの私たちにとって元気の源です。このたびいただいたお便りはとても大きな支えと励みになりました。

さあ！“秋の勉学・行楽シーズン”の到来目前です！！少しでもご来館者のお役に立てるよう、これからも精一杯努めたいと思います。

～次回へ続く～かもしれない！？



INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

第21回技術発表会プログラムのご案内

大学院工学系研究科・工学部では9月26日（火）「第21回工学部・工学系研究科技術発表会」を下記プログラムのように開催いたします。今回は特別企画として「未来を目指して・技術部と技術職員」と題し、学内外のゲストパネラーによるパネルディスカッションも開催いたしますので多数ご参加ください。詳細は以下の技術部ホームページ技術発表会メニューをご覧ください。

<http://www.ttc.t.u-tokyo.ac.jp/>

プログラム

【開会挨拶】 9:30～ 9:45

【発表－1】 9:45～10:45

低温領域における弾性波動伝播測定システムの構築
技術部ホームページ

－技術職員情報の公開を目指して2－
自作パソコン入門 ー総集編ー
動的義手の設計と製作

【発表－2】 10:50～11:50

倒立ねじり振子を用いた金属およびセラミックスの
内部減衰の測定

垂直配向単層カーボンナノチューブ膜の超撥水性
－微小液滴を配置し接触角測定－

ハートの非弾性構成式における技術的改良の試み
接地線にノイズ電流を集める回路の設計方法

【ポスターセッション・展示】 12:30～13:00

フローインジェクション分析による濃厚銅中コバルト
の分析

後方散乱分析装置の現状
技術部・情報センター

－技術職員情報の公開を目指して1－
動的義手の設計と製作
接地線にノイズ電流を集める回路の設計方法
自作パソコン入門（総集編）

【発表－3】 13:05～14:05

MALTのセシウムスパッター型負イオン源
(MC-SNICS)

PIXE分析法によるアスベストの検出

C-14年代測定における低バックグラウンド化
－試料作製時の現代炭素の混入最小化－
炭化水素の酸化反応に活性を示す光触媒の研究

【発表－4】 14:10～15:10

光ファイバーを利用したひずみセンサーの開発
ShareFastによる造船設計支援システムの開発

破壊力学パラメータ簡易評価システム（CRAPAS）
の開発
来所管理システムの開発

【パネルディスカッション】 15:15～17:15

進行：技術部長 影山 和郎

「未来を目指して・技術部と技術職員」

基調講演・技術部および技術職員への期待

システム量子工学専攻	田中 知
パネラー 鹿児島大学工学部技術部	大角 義浩
東北大学多元物質科学研究所	柴田 吉郎
高エネルギー加速器研究機構	橋本 義徳
システム量子工学専攻	細野 米市
環境海洋工学専攻	吉田 二郎

【表彰式・閉会式】 17:20～17:50

【懇親会】 18:00～19:40

参加費：1,000円（どなたでもご参加できます）

公開講座「ロボット新世紀」を開催！
受講申込受付中！

開講にあたって

今回の東京大学公開講座「ロボット新世紀」では、著しい発展をとげているロボットに関わる学問の世界を多様な視点から紹介して、お越しいただいたみなさまとロボットと創る未来を描いてみたいと考えています。

目を見張る最近のロボット技術の背後には、これまでのさまざまな分野における科学技術の歴史と発展があります。はじめに、「ロボットのあゆみ」ではこうした背景に触れながらロボット活用の場面を眺めることにします。次いで、「ロボットと社会」ではロボットが利用されている状況と社会との関わりについての講義の後、パネル討論で議論します。最近のロボットには高い知的な行動を見ることができそうですが、ロボットの知はどこまで人間の知能に近づき、どこまで運動能力を高められるのでしょうか。第3回「ロボットと知」では、人間の発達過程とロボットの関わりやロボットの脳を創る技術を扱い、第4回の「ロボット解剖学」ではロボットの身体について最先端の技術を紹介します。最終回の第5回には、ますます広がるロボットの世界とあらたな展開を見せるロボット技術による未来の社会を展望します。

「ロボット新世紀」と名付けたこの公開講座では、東京大学の多くの教員が講義・討論に参加します。ロボットは今後、ますます社会で真価を発揮することになるでしょう。人間と社会に貢献するロボットの新世紀を担う学問の発展と技術の展開をみなさまと一緒に期待したいと思います。

第105回東京大学公開講座企画委員会
委員長 武市 正人

第105回東京大学公開講座「ロボット新世紀」

- 第1日 9月30日(土) ロボットのあゆみ
- 第2日 10月7日(土) ロボットと社会
- 第3日 10月14日(土) ロボットと知
- 第4日 10月21日(土) ロボット解剖学
- 第5日 10月28日(土) ロボット未来学

※詳しくはホームページをご覧ください。

会場：大講堂 [安田講堂]

対象：成人一般・大学生・高校生

定員：1,000名

受講料：全講義（5日間）一括申込4,000円

選 択（1日）1,000円

※高校生は半額とします。

※東京大学の学生は無料、教職員は半額

申込方法：申込書に必要事項をご記入の上、事前にお申し込みください。

※東京大学の教職員は半額で受講できます。

（所属・連絡先を明記の上、一般の方と同じようにお申し込み下さい。）

※東京大学の学生は無料です。事前にメールまたはFAXでお申し込み下さい。先着100名。当日は学生証を持参下さい。

Mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX: 03-3816-3913

<必要事項>

参加希望日・氏名・所属学部等・学年・年齢・電話番号

※当日参加も可能ですが、定員に達した場合にはお断りすることもございます。

パンフレット・申込書は、下記までご請求ください。

東京大学のホームページからダウンロードもできます。

東京大学総務部内 財団法人 東京大学総合研究会

電話 03-3815-8345

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html

（東京大学ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座）

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

第105回 平成18年 秋季
東京大学 公開講座
ロボット新世紀

講座日程	第1日 9月30日(土) ロボットのあゆみ	第2日 10月7日(土) ロボットと社会	第3日 10月14日(土) ロボットと知	第4日 10月21日(土) ロボット解剖学	第5日 10月28日(土) ロボット未来学
13:30-13:45	開講の挨拶 武市 正人	13:30-14:05	ロボットと知 佐藤 隆	13:30-14:05	インテグレーションロボット 藤原 達孝
13:45-14:20	ロボットの歴史 佐藤 隆	14:05-14:45	ロボットと社会 池内 亮	14:10-14:45	ロボットと芸術 池内 亮
14:25-15:05	ロボットと脳 佐藤 隆	14:15-14:55	ロボットと知 佐藤 隆	15:05-15:40	未知の領域に広がる 佐藤 隆
15:10-15:50	ロボットの未来 佐藤 隆	15:15-15:55	ロボットと知 佐藤 隆	15:45-16:30	ロボットと芸術 池内 亮
15:55-16:05	閉講の挨拶 武市 正人	16:00-16:40	ロボットと知 佐藤 隆	16:30-17:05	ロボットの歴史 佐藤 隆
16:10-16:50	ロボットの未来 佐藤 隆	16:45-17:05	ロボットの歴史 佐藤 隆	17:05-17:15	閉講の挨拶 小島 隆

主催 東京大学 東京大学総合研究会
協賛 財団法人 東京大学総合研究会
電話 03-3815-8345
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html
E-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

第9回年次シンポジウム - CSIS DAYS 2006 -
のご案内

2006年度の当センターの第9回年次シンポジウム(CSIS DAYS 2006)のプログラムが確定しましたのでご案内申し上げます。

CSIS DAYS 2006は、空間情報科学研究センターで行われている研究活動やその方向と、「空間+情報」という視点からのさまざまなユニークな全国共同研究をご覧いただく、年に一度の機会です。さらに今年は、久保正敏教授(国立民族学博物館 文化資源研究センター)による「民族情報学と文化資源の時空間的処理」と、大西啓介氏(株式会社 ナビタイムジャパン 代表取締役 社長)による「ユニバーサルな歩行者ナビゲーションの実現までの道程と今後の展開」の2件の招待講演も予定しております。全国共同利用施設の記念式典も同時に行われます。

これまでCSIS DAYSが開催されていた本郷キャンパスに比べ、柏キャンパスはやや遠隔ではありますが、CSIS DAYS 2006が皆様にとって貴重な体験となることを確信しております。

CSIS DAYS 2006 開催要領

- 日時：10月4日(水) 9:30～17:30
(18:00～19:30、全国共同利用施設記念祝賀会)
5日(木) 9:30～18:00
※受付は各日とも9:00開始です。
- 会場：東京大学柏キャンパス総合研究棟6階大会議室
http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/japanese/about_csis/location.html
(当センターのある建物の6階が会場となります)
- 参加費：無料
- 参加申込方法：以下のホームページからお申し込みください。
<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/>
(参加申し込みは、7月の学内広報でもご連絡しましたように、8月からすでに始めており、定員を大きく超える場合、事前に参加申込を締め切ることもございますのでご理解をお願いいたします。)
- お問合せ先：
空間情報科学研究センター 第9回シンポジウム受付係
E-mail: csisdays06-office@csis.u-tokyo.ac.jp

【プログラム：CSIS DAYS 2006】

- 10月4日(水)：初日のプログラム
 - 9:30～9:40 開会のあいさつ
 - 9:40～12:00 「CSIS 研究活動紹介」セッション
センター紹介、個人研究紹介、研究プロジェクト紹介
 - 12:00～13:30 昼食休憩
 - 13:30～15:30 「招待講演」セッション
 - 13:30～14:30 【招待講演1】
「民族情報学と文化資源の時空間的処理」
久保 正敏
(国立民族学博物館 文化資源研究センター 教授)
 - 14:30～15:30 【招待講演2】
「ユニバーサルな歩行者ナビゲーションの実現までの道程と今後の展開」
大西 啓介
(株式会社 ナビタイムジャパン 代表取締役 社長)
 - 15:30～16:00 休憩
 - 16:00～17:30 「全国共同利用施設記念式典」
 - 18:00～19:30 「全国共同利用施設記念祝賀会」
- 10月5日(木)：2日目のプログラム
 - ※全日(9:30～18:00)：「全国共同利用研究発表大会」セッション
 - 9:30～9:40 開会のあいさつ
 - 9:40～11:55
「全国共同利用研究発表大会」セッション(第1部)
 - 【A：人口】(4件)
 - 【B：都市環境】(8件)
 - 【C：自然環境と土地利用】(7件)
 - 9:40～11:15 口頭発表セッション
(1件5分、19件)
 - 11:15～11:55 ポスター発表
 - 11:55～13:00 休憩(昼食)
 - 13:00～15:10 「全国共同利用研究発表大会」
セッション(第2部)
 - 【D：居住と自然環境】(5件)
 - 【E：教育と参加型GIS】(5件)
 - 【F：安全・安心】(8件)
 - 13:00～14:30 口頭発表セッション
(1件5分、18件)
 - 14:30～15:10 ポスター発表
 - 15:10～15:40 休憩
 - 15:40～17:50 「全国共同利用研究発表大会」
セッション(第3部)
 - 【G：地図学とモデリング】(5件)
 - 【H：Web GIS】(6件)
 - 【I：ツール】(7件)
 - 15:40～17:10 口頭発表セッション
(1件5分、18件)
 - 17:10～17:50 ポスター発表

●17:50～18:00 閉会のあいさつ

※プログラムの詳細は、CSIS DAYS 2006のホームページ (<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/>) からご覧になることができます。

シンポジウム・講演会

物性研究所

東京大学物性研究所一般講演会

- 日時 10月9日(月・祝日) 14:00～17:00
- 場所 東京大学柏図書館AVホール
- 定員 先着160人
- 内容 太陽光発電の未来とエネルギー問題

① 近藤道雄博士(産業技術総合研究所:太陽光発電研究センター長)による講演

・躍進する太陽光発電産業:持続的発展社会を目指して

② 科学映画上映

・The Power of the Sun
-太陽光に秘められた力-

③ ウォールター・コーン教授(米国サンタバーバラ大学:1998年ノーベル化学賞受賞)による講演

・The coming energy - climate crisis and beyond
: an independent American perspective
-迫り来るエネルギー危機と環境破壊
:ノーベル賞受賞者が語る米国の視点と展望-

■費用 無料

■申し込み FAX、電子メール、ハガキのいずれかにより、10月2日(月)(必着)までに下記へ直接申し込んでください。

柏地区物性研担当課総務係

〒277-8581 柏市柏の葉5-1-5

FAX:7136-3216

E-mail: kouenkai@issp.u-tokyo.ac.jp

■その他 同時通訳はありません

柏市企画調整課 TEL:04-7167-1117

東京大学物性研究所 TEL:04-7136-3207

シンポジウム・講演会

大学院総合文化研究科・教養学部

2006年度東大シンポジウム「近現代中国と東アジアの公共性——自由と統合をめぐる——」のご案内

本シンポジウムは、日台交流を目的とした昨年10月の国際シンポジウム「近代中国思想與制度学術研討会」(「近代中国の思想と制度」学術シンポジウム、於台北)の成果を引き継ぐもので、日本・韓国・中国大陸・台湾・アメリカ合衆国などから研究者を招聘し、近現代中国と東アジアの公共性をめぐる諸問題を検討しようとするものです。いうまでもなく、東アジア各国、各地域の公共性は、それぞれの自由観と統合のあり方に規定されていることから、私たちは、異なった空間と方法の視点から、東アジアの公共性の過去と現在、そして未来を議論することにしました。皆さま、どうか奮ってご参加下さい。

なお、本シンポジウムは、「2006年度東京大学基金東大シンポジウム開催経費」と「2006年度財団法人交流協会共同研究事業」の助成をうけて開催されます。

■日時:10月14日(土)～15日(日)9:00～

■会場:駒場キャンパス18号館

14日:4Fコラボレーションルーム1

15日:1Fホール

■プログラム:

※使用言語は原則として中国語ですが、補助通訳も適宜つきます。

<10月14日>

第一セッション「『外』からみた中国近現代史」

「キャプタ会谈早期開催に向けたロシアの努力と内蒙古問題」小軍／「汪兆銘政権の教育事業と教員層」大澤肇／「吉田茂の中国観における帝国主義思想と英米協調論との矛盾について」戴振豊

第二セッション「中国における制度の現代化」

「国民政府時期の労働法制の確立」楊秀菁／「中央研究院第一回院士選挙より見る20世紀前半期中国の学術」竹元規人

テーマ講演:「“東亞病夫”と黄禍」楊瑞松(政治大学)

第三セッション「中国の現代化と地域社会」

「東北のベスト流行から見た内政と外交の連動」呉俊瑩／「近代上海の社会変遷と公共衛生」周春燕／「第一次大戦後の道徳教育学説論争からみた近代中国デモクラシー思潮」小川唯

第四セッション「東アジアと冷戦」

「中華民国と国際連合」蕭道中／「台湾の公営海運建設

と日本」林本原／「冷戦期日本のアメリカ学界にとってのアジア」若松大祐

<10月15日>

基調講演：「台湾において民主・自由は何ができるか？」
若林正文（東京大学）／「北洋外交研究と民国史の再解釈」唐啓華（政治大学）

第一セッション「エスニシティと正統性」

「歪められた語彙への抵抗」Uradyn E.BULAG（ニューヨーク市立大学）／「越境する狩人から公民へ」麻国慶（中山大學）

* 司会：飯島渉（青山学院大学）、コメンテーター：平野聡（東京大学）、呉重慶（中山大學）

基調講演：「兩岸三地の経済発展と東アジア資本主義に対する新解釈」久保亨（信州大学）

第二セッション「ナショナリズムの社会表象」

「中山陵」李恭忠（南京大学）／「戦後台湾の中学地理教科書における祖国の想像」王文隆（政治大学）

* 司会：村田雄二郎（東京大学）、コメンテーター：白永瑞（永世大学）、吉澤誠一郎（東京大学）

第三セッション「支配と学知」

「王贛愚の民主主義思想」水羽信男（広島大学）／「読書と政治」鄭麗榕（政治大学）

* 司会：土田哲夫（中央大学）、コメンテーター：姜進（華東師範大学）、薛化元（政治大学）

■申し込み方法：

14日の参加を希望される方は、会場の都合のため、事務局・中村元哉（motoyanakamura@ hotmail.com）まで事前にご連絡下さい。15日は参加自由です。

■お問い合わせ：

総合文化研究科 村田雄二郎研究室
TEL：03-5454-6418
E-mail: murata@ask.c.u-tokyo.ac.jp

シンポジウム・講演会

社会科学研究所

国際ワークショップ「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」開催のご案内

社会科学研究所は、11月17日（金）および18日（土）の2日間の日程で、「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」をテーマとする国際ワークショップを開催いたします。

グローバル化する世界において社会科学的日本研究は益々の発展が期待される分野ですが、しかし、現実には、「失われた10年」と形容される1990年代以降、日本の社会・経済モデル、政治モデルに対する世界の関心が相対的に低下し、このことが、各国の日本研究の制度上、財政上の環境にも影響を及ぼしているとの指摘があります。また他方では、日本一国を取り出して研究対象とするのではなく、存在感をますます強めつつある中国や韓国をはじめ東アジア諸国との比較や関係という観点から改めて日本を位置づけなおす、という新しい動きも見られます。このような状況をふまえ、この国際ワークショップでは、世界各国の第一線で活躍する日本研究者12名を招聘し、各国における社会科学的日本研究をめぐる最近の動向について幅広く意見を交換し、今後の研究の方向を展望していきたいと考えています。

第一日目である11月17日の午後は、公開シンポジウムの形で開催します。一般参加を歓迎いたします。

詳しいプログラムおよび参加方法は社会科学研究所のホームページ（<http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/>）に公開しますので、それをご覧いただくか、あるいは、下記までお問合せください。

■日時：11月17日（金）～18日（土）

■会場：社会科学研究所大会議室（17日午後の公開シンポジウムは理学部1号館・小柴ホール）

■テーマ：

「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」

■問い合わせ先：

社会科学研究所所長室（藤山）

TEL：03-5841-4900（内線24900）

E-mail：fujiyama@iss.u-tokyo.ac.jp

募集

募集

総務部

東京大学130周年記念シンボルマーク 及びキャラクター募集

東京大学は明治10年（1877年）に創設以来、近代日本国家の発展に貢献してきました。第二次世界大戦後の昭和24年（1949年）、新制大学として再出発を期して以来、本学は日本の発展と豊かな社会の実現に寄与してきました。今、本学は、創立期、戦後改革の時代につぐ、第三の創業ともいえる大きな転換期に立っています。国立大学法人化に伴い、より自由にして自立性を発揮することができる地位を得ました。平成19年（2007年）4月12日に創立130周年を迎えるにあたり、世界における本学の位置づけを再確認するとともに、本学のあるべき姿と進むべき方向を世に問い、より多くの方々と、今後歩むべき道のりを語り合う機会として、本学は創立130周年記念事業を行います。

本記念事業のイメージを広く伝えるために、下記の要領で東京大学130周年記念シンボルマーク及びキャラクターを専門家と学内から募集することになりました。

1. シンボルマーク及びキャラクター

「東京大学130周年記念」の事業コンセプトにふさわしいもの

※「東京大学創立130周年記念事業：基本コンセプト（案）」（以下のURL）参照

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/d04_11_01_j.html

2. 応募資格

教職員、学生

3. 応募期間

9月1日（金）～9月29日（金）（必着）

4. 応募条件

（1）シンボルマーク

- ・様式サイズはA4版で自由（電子データでも可。）
- ・自作かつ未発表のもので、他に類似の作品がないものに限る。
- ・シンボルマークのコンセプト（200字以内）を添えて提出のこと。

（2）キャラクター

- ・様式サイズはA4版で自由（電子データでも可。）
- ・自作かつ未発表のもので、他に類似の作品がないものに限る。

・キャラクターの愛称とコンセプト（200字以内）を添えて提出のこと。

※（1）、（2）とも別紙応募用紙に氏名（ふりがな）、所属、住所、電話番号（自宅又は携帯）、E-mailアドレスを記入してください。

なお、今回応募していただいた内容の個人情報につきましては、本件の目的以外の利用及び提供はいたしません。

5. 応募方法

上記応募条件を満たした作品を、郵送、E-mail若しくは直接持参してください。

※4の応募条件（1）、（2）のどちらか一方でも結構です。応募数に制限はありませんが、応募用紙1枚につき1点とします。応募用紙は本学のホームページからダウンロードできます。

6. 選 定

東京大学130周年記念準備委員会において審査のうえ、入選作品を決定します。

7. 賞 品

入選作品について、賞金5万円副賞として記念品

8. 発 表

- ・平成18年10月中旬予定。
- ・入選者には直接通知します。
- ・入選作品に関する全ての権利は東京大学に帰属し、130周年記念事業に係る活動以外にも使用する場合があります。
- ・入選作品については、必要に応じ修正、補正を行うことがあります。
- ・応募作品は返却しません。

※原則として応募作品は「130周年記念事業シンボルマークコンセプトブック（仮称）」に紹介しますのでご了承願います。

9. 問合せ・応募先

総務部総務課

東京大学130周年記念事業準備委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

TEL：03-5841-2012

E-mail：sousedu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

募集

大学院人文社会系研究科・文学部

平成19（2007）年度 大学院人文社会系研究科入学試験のお知らせ

9月1日（金）から「平成19（2007）年度大学院人文社会系研究科修士課程及び博士課程学生募集要項」の配布を開始した。日程は以下のとおり。

〔修士課程〕

第一次（筆記）試験 平成19年1月27日（土）

第二次（口述）試験 平成19年2月14日（水）

※文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の第二次（口述）試験については2月13日（火）に行う。

※文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れも行っている。

〔博士課程〕

第一次選考 論文審査等（専門分野によっては学力試験を実施）

第二次選考（口述） 平成19年2月16日（金）

※文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の第二次選考（口述）については2月15日（木）に行う。

※文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れも行っている。

また、出願期間は以下のとおり。

〔修士課程〕

平成18年10月23日（月）～10月27日（金）

（郵送のみ受付。27日（午後5時）必着。）

〔博士課程〕

平成18年12月6日（水）～12月12日（火）

（直接持参又は郵送。12日（午後3時）必着。）

募集要項の郵送を希望する者は、封筒の表に「〇〇課程学生募集要項請求」と朱書きし、郵便番号・住所・氏名を明記して、200円分（修・博等2部必要な場合は240円分）の切手を添付した返信用封筒（角型2号）を同封し、以下へ送付。

〒113-0033

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学大学院人文社会系研究科 事務部

電話03-5841-3710,3712（大学院係）

お知らせ

お知らせ

学生部

各種選抜要項・募集要項等交付のお知らせ

「平成19年度入学者選抜要項」及び「大学案内2007」の交付始まる

「平成19年度東京大学入学者選抜要項」が決定し、各都道府県教育委員会等に通知するとともに8月1日から、本郷キャンパス（正門、赤門、広報センター〈龍岡門〉、コミュニケーションセンター〈赤門脇〉、東大生協〈安田講堂売店、書籍部〉、農学部正門）、駒場Iキャンパス（正門、生協売店）で交付を開始した。また、東京大学ホームページ、テレメールからも請求することができる。

※入学者選抜の実施教科・科目等は別表1・2のとおりである。

また、昨年度作成した「大学案内」についても、2007年度版が完成し、同様に交付を開始した。

「平成19年度外国学校卒業学生募集要項」の交付始まる

「平成19年度東京大学外国学校卒業学生募集要項」が決定し、7月3日から入学志願者に対し、本郷キャンパス（正門、赤門、広報センター（龍岡門）、農学部正門）駒場Iキャンパス（正門）で交付を開始した。また、東京大学ホームページからも請求することができる。

募集人員、選抜期日、選抜方法、出願資格など、特別選考の概要は別表3のとおりである。

「平成19年度大学入試センター試験受験案内」の交付始まる

「平成19年度大学入試センター試験受験案内」の交付が9月1日から全国の国公立大学等で一斉に始まった。

「受験案内」の交付を受けようとする者は、最寄りの国公立大学又は大学入試センター試験を利用している私立大学に、直接又は出身高校を経由して申し込むことになっている。本学では本郷キャンパス（正門、赤門、広報センター〈龍岡門〉、コミュニケーションセンター〈赤門脇〉、東大生協〈安田講堂売店、書籍部〉、農学部正門）、駒場Iキャンパス（正門、生協売店）で交付している。

平成19年度 東京大学入学選抜の実施教科・科目等について (文科各組)

別表1

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成18年度 志願倍率〕	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		教科等	個別学力検査等 (第2次学力試験)		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							注3 点 配 合 計	特別の選 抜方法等	その他	
		科目名等	科目名等		試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	論文I	論文II				
文科一類 6.0 415人 前期 373 後期 42 その他 若干	前期 2月25日 ・26日	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 数I・数A 数II・数B、工、簿・会、情報から1 物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 〔6教科7科目〕	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・数A・数B 日B、世B、地理Bから2 英(英I・英II・リーディング)、独、仏、 中から1	国 数 地歴 外	約 3.0 倍	センター試験	200	100	100	200	100	200	200	200	900	帰国子女 外国人 追加合格	
文科二類 4.9 365人 前期 327 後期 38 その他 若干	後期 3月13日	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 〔4教科4科目〕	論文I 論文II	その他	約 5.0 倍	個別学力検査	120	120		80				200	440		
文科三類 5.2 485人 前期 432 後期 53 その他 若干	前期 2月25日 ・26日	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 数I・数A 数II・数B、工、簿・会、情報から1 物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 〔6教科7科目〕	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・数A・数B 日B、世B、地理Bから2 英(英I・英II・リーディング)、独、仏、 中から1	国 数 地歴 外	約 3.0 倍	センター試験	200	100	100	200	100	200	100	200	900	帰国子女 外国人 追加合格	
	後期 3月13日	数 公民 外	論文I 論文II	その他	約 5.0 倍	個別学力検査	120	120		80					440		
	前期 2月25日 ・26日	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 数I・数A 数II・数B、工、簿・会、情報から1 物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 〔3教科4科目〕	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・数A・数B 日B、世B、地理Bから2 英(英I・英II・リーディング)、独、仏、 中から1	国 数 地歴 外	約 3.0 倍	センター試験	200	100	100	200	100	200	100	200	900	帰国子女 外国人 追加合格	
	後期 3月13日	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 〔4教科4科目〕	論文I 論文II	その他	約 5.0 倍	個別学力検査	120	120		80					440		

注1 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
 (1) 工業数理基礎、簿記・会計、情報関係基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけである。
 (2) 英語のリスニングテストの成績については、利用しない。
 注2 【個別学力検査等】欄
 (1) 数学Bの出題範囲は次のとおりである。
 数学B (数列、ベクトル)
 (2) 前期日程の英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。
 (3) 論文Iは、外国語読解を主とし、思考力・表現力を見る。(外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうちから、一つを試験場において選択することができる。)
 (4) 論文II(文I、文II)は、文化、社会に関する問題について論述させ、理解力・思考力・表現力を見る。

(5) 論文II(文III)は、人類の思想、歴史、言語、行動、教育及び文化全般に関する諸学をめぐって、入学後それらを意欲的に学習・研究するための基礎を問う。理解力・表現力・思考力を見るが、特に正確な知識に裏付けられた独創性を評価する。
 (6) 論文Iは、文科各組に共通の問題
 (7) 論文IIは、文科各組ごとに別の問題
 注3 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄
 (1) 前期日程：学力試験の成績の判定は、大学入試センター試験の成績(総得点900.0点を110点に換算)と個別学力検査の成績(総得点440.0点)とを総合(550点満点)して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」とする。
 (2) 後期日程：合格者の判定は、個別学力検査の結果に基づいて行う。ただし、判定に必要な場合は、大学入試センター試験の成績や調査書を考慮することがある。
 (3) 後期文科三類の*印を付してある教科は、複数の科目を受験した場合に高得点の科目の成績を合否判定に利用することを表す。

実施科類	文科一類、文科二類、文科三類 理科一類、理科二類、理科三類
募集人員	文科一類、文科二類、文科三類 } 第1種、第2種 各若干名 理科一類、理科二類、理科三類 }
出願資格	<p>【第1種】(外国人であって日本国の永住許可を得ていない者) 平成14(2002)年4月1日から平成19(2007)年3月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア 外国において、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは、地理的、場所的に外国で、原則として、その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって、修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。 イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次に掲げるすべての要件を満たすこと。 ア 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験(平成18(2006)年6月、11月実施のいずれか)の所定の科目をすべて受験すること(日本語・英語いずれの出題言語でも受験可)。所定の科目とは、文科各類を志望する者は文科系の科目である「日本語」・「総合科目」・「数学(コース1)」、理科各類を志望する者は理科系の科目である「日本語」・「理科(物理・化学・生物から2科目選択)」・「数学(コース2)」のことである。 注) 数学のコース選択を注意すること。コースの選択を間違えた者は、第1次選考不合格者とみなすので注意すること。 イ TOEFL(Test of English as a Foreign Language)を受験すること(PBT、CBTいずれでも可)。なお、出願期間までにOfficial Score Report又はExaminee's Score Recordが提出できれば、受験時期は問わない。 ウ 外国の学校に、原則として、最終学年を含め継続して1年以上在学し、原則としてその最終学校を修了すること。</p> <p>【第2種】(日本人及び第1種以外の外国人) 平成17(2005)年4月1日から平成19(2007)年3月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア 外国において、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは、地理的、場所的に外国で、原則として、その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって、修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。 なお、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設出身者は出願が認められない。 イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次の要件を満たしていること。 外国の学校に、原則として、最終学年を含め継続して3年以上在学し、その最終学校を修了すること。最終学年の休業等によって書類上の在学期間が3年未満となる場合についても、3年以上在学したものとみなす場合がある。</p>
選抜方法等	<p>【第1種】(外国人であって日本国の永住許可を得ていない者) (1) 第1次選考 書類選考、日本留学試験及びTOEFL(Test of English as a Foreign Language)の成績 (2) 第2次選考 小論文、面接 なお、小論文については次のとおりである。 [小論文] 2問を課す。 2問とも日本語で解答すること。</p> <p>【第2種】(日本人及び第1種以外の外国人) (1) 第1次選考 書類選考 (2) 第2次選考 小論文、学力試験、面接 なお、小論文及び学力試験の出題教科・科目については次のとおりである。 [小論文] 2問を課す。 第1問は日本語で解答し、第2問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語 [学力試験] (文科各類) 外国語 英(英I、英II、リーディング)、独、仏、中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 (理科各類) 数学 数I、数II、数III、数A、数B(数列、ベクトル)、数C(行列とその応用、式と曲線) 理科 物I・物II、化I・化II、生I・生II、地学I・地学IIから2</p>
出願期間	第1種 平成18(2006)年12月1日(金)から12月11日(月)まで 第2種 平成18(2006)年11月1日(水)から11月10日(金)まで
選抜期日	第1種 平成19(2007)年2月25日(日)、3月16日(金) 第2種 平成19(2007)年2月25日(日)・26日(月)、3月16日(金)
合格発表日	平成19(2007)年3月21日(水)
その他	「平成19(2007)年度外国学校卒業学生募集要項」は、交付中である。

お知らせ

附属図書館

総合図書館備付け図書の推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、また教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成18年度冬学期に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

1 取りまとめ窓口 各部局図書館(室)

2 推薦期限 10月4日(水)

なお、その他の図書の推薦は随時受け付けます。

3 推薦図書の範囲

(1) 講義に密着した図書は、本郷キャンパスの講義を対象としています。

(2) その他、学生の教養書としてふさわしいものを推薦ください。

※ただし、雑誌および学生にとってあまりに高度な専門図書、医学・薬学臨床系図書は除いてください。

4 推薦方法 総合図書館備付け図書推薦要領によります。

※推薦要領は、各部局図書館(室)に備え付けております。

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

東京大学にご所属であればどなたでも参加できます。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー

●定員：

12名（予約不要です。直接ご来場ください。）

●スケジュール：

10/3（火）14:00～15:00 図書館の蔵書を検索するには？

10/11（水）11:00～12:00 日本の論文を探すには？

10/19（木）16:00～17:00 電子ジャーナルを利用するには？

●コース概要：

＜テーマ別ガイダンス＞

1つのテーマに沿って、検索実習を交えながら解説します。

■ 図書館の蔵書を検索するには？（60分）

“東京大学OPAC”（蔵書目録データベース）の使い方を中心に、図書館の蔵書を検索できるいろいろなデータベースを紹介します。

新サービス「MyLibrary」についてもご紹介します。

■ 日本の論文を探すには？（60分）【New!】

FELIX、CiNiiの使い方を中心に、日本の論文・雑誌記事を検索できるデータベースを紹介します。

（※このコースは従来の「データベースユーザトレーニング・FELIXとCiNiiコース」を発展・改編したものです。）

■ 電子ジャーナルを利用するには？（60分）

電子ジャーナルにアクセスする方法や、代表的な出版社の電子ジャーナルサイトを例にとって実際の利用方法を解説します。

●問い合わせ 学術情報リテラシー係（22649）

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
	堀川 穎二	平成18年7月3日死亡	大学院数理科学研究科教授
18.7.15	荒巻 健二	辞 職（財務省大臣官房付）	大学院総合文化研究科教授
18.7.17	中井徳太郎	辞 職（財務省大臣官房付）	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター教授
18.7.25	岡崎 毅	辞 職（総務省郵政行政局付）	大学院情報学環助教授
18.7.31	滝澤 始	辞 職	大学院医学系研究科助教授
18.7.31	松本 淳	辞 職	大学院理学系研究科助教授
（採 用）			
18.7.16	加毛 明	大学院法学政治学研究科助教授	大学院法学政治学研究科研究拠点形成特任研究員
18.8.1	小蒲 哲夫	産学連携本部教授	産学連携本部産学官連携研究員
18.8.1	岩中 督	大学院医学系研究科教授	
18.8.1	西村 拓	大学院農学生命科学研究科助教授	東京農工大学大学院共生科学技術研究院助教授
18.9.1	鈴木 宣弘	大学院農学生命科学研究科教授	九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門教授
18.9.1	河野 崇	生産技術研究所附属マイクロメカトロニクス国際研究センター助教授	科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業グループリーダー
18.9.1	豊田 正史	生産技術研究所附属戦略情報融合国際研究センター助教授	生産技術研究所附属戦略情報融合国際研究センター産学官連携研究員
18.9.1	常次 宏一	物性研究所教授	京都大学基礎物理学研究所教授
（昇 任）			
18.7.16	滝沢 智	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.7.16	土屋 武司	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.7.16	BRAUN RICHARD ANTON	大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター教授	大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター助教授
18.7.16	石川 裕	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報理工学系研究科助教授
18.7.16	井上 広滋	海洋研究所附属海洋科学国際共同研究センター助教授	海洋研究所助手
18.8.16	新井 崇臣	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター助教授	海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター助手
18.9.1	大武美保子	人工物工学研究センター助教授	総括プロジェクト機構講師
18.9.1	正宗英津子	大学院工学系研究科助教授	大学院新領域創成科学研究科講師
18.9.1	内野 儀	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科助教授
（配 置 換）			
18.8.1	相澤 清晴	大学院情報理工学系研究科教授	大学院新領域創成科学研究科教授
18.8.1	KARLIN JASON GREGORY	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター助教授	社会科学研究所助教授
（兼 務 免）			
18.8.16	岩本 愛吉	医科学研究所附属病院長	医科学研究所附属先端医療研究センター教授
（兼 務 命）			
18.8.16	山下 直秀	医科学研究所附属病院長	医科学研究所附属病院教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

松本 順一郎 名誉教授

本学名誉教授松本順一郎先生は、かねてよりご療養中のところ、2006年7月26日、83歳でご逝去なさいました。先生は、1947年東京帝国大学第一工学部土木工学科をご卒業になり、厚生省公衆衛生院、米国ジョンズホプキンス大学留学を経て、1955年に東北大学に着任、工学部土木工学科において1986年までお務めになったのち、同年から1993年までは日本大学にて教鞭を執られました。先生は東北大学在任中、1973年5月から1983年3月の約10年間にわたり、本学工学部都市工学科において講座担任の教授を併任されました。同学科の現教員の中には東北大学に勤務し直接先生の警咳に接したものもあり、同学科の教育と研究に大きな影響を及ぼされました。



先生の教育と研究の領域は、水を中心とした環境工学でありました。先生のご逝去は、東北大学、本学のみならず、わが国全体にとっても大きな損失であります。今日でこそ環境問題の重要性は社会一般にも認識されていますが、未だそのような認識が薄かった時代に、先生は土木工学の中の衛生工学においてその礎を築かれました。とりわけ、国際的な交流がまだ盛んでなかった当時、衛生工学の分野の国際的な学術交流に大きな力を注がれ、水の分野の有力な学会である国際水質汚濁研究協会（現国際水協会）で活発な活動をされ、副会長を1984年から4年間務められました。その間、同協会のアジア地域大会の初めての開催に力を尽くされるなど、アジア全体の学術水準の向上に貢献されました。また、同協会に対して日本を代表する団体でもある日本水質汚濁研究協会（現日本水環境学会）の会長を1983年から2年間お務めになられたほか、土木学会副会長を始めとした要職を歴任されました。日本学術会議会員在任中は、世界工学団体連盟（WFEO）の日本代表をお務めになりました。

これらの先生の御業績に対し、空気調和衛生工学会、土木学会、日本水環境学会、日本水道協会、日本下水道協会などの学協会から賞が贈られ、1999年には勲三等旭日中綬章をお受けになり、また東北大学からも名誉教授の称号が授与されております。

ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院工学系研究科）

植村 恒義 名誉教授

本学名誉教授植村恒義先生は、ご療養中のところ、8月24日、85歳でご逝去なさいました。先生は、1944年東京帝国大学第二工学部造兵学科をご卒業になり、大学院を経て、1946年に東京帝国大学第二工学部講師に任官されました。1951年から東京大学生産技術研究所勤務となり、1968年には教授にご就任されました。1971年に東京大学工学部に配置転換され、精密機械工学第三講座（精密測定学）をご担当になりました。以降、1983年にご退官されるまで、36年の長きにわたって本学に奉職され、その深い学識と高邁な人格によって、研究と教育に多大な貢献をなされました。



先生のご研究の分野は精密測定学および画像工学に関する研究でありました。特に、高速度現象解析のための各種高速度写真撮影装置の開発研究ならびに多くの応用研究を行って、わが国の高速度画像計測研究を国際的水準まで引き上げ、学会産業界に多大の貢献をされました。先生が開発された毎秒六百万画の超高速度カメラ、高速度ホログラフィー装置などは、日本が世界に誇れるものでありました。また、応用研究として、内燃機関の燃焼解析、材料の衝撃破壊の解析、高速円盤の空気抵抗と破壊の研究、レーザ加工機構、初期からのロケットの観測、スキージャンプ競技などの各種スポーツ運動の解析など幅広い分野に、取り組まれ、これらの卓越した功績により、1959年に日本映画技術協会技術賞を、1968年には科学技術庁科学技術功労賞長官賞を、1996年に勲三等旭日中綬章を授与されています。さらに、海外においても1978年に米国映画テレビジョン学会フォトソニック賞を、1986年に英国国立写真学会コールマン賞を受賞しておられます。また、中国科学技術大学を中心とする中国の大学との学術交流に尽力され、同大学に画像研究所を設立されるなど、中国の大学研究教育水準の向上に貢献され、その功による中国政府から国家友誼賞を授与されています。

ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院工学系研究科）

ニューズページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

なお、「提出の際の留意事項」によらない原稿については、掲載ができないというのではなく、編集段階において適宜修正の上、掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. **提出方法** 記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。
2. **提出先** 総務部広報課 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
3. **締切日** 原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。
ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html（トップページ>広報・情報公開>学内広報）
4. **提出の際の留意事項**
 - (1) **文字数** 文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。
 - (2) **写真**
 - ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
 - ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
 - ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。
 - (3) **書式**
 - ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
 - ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
 - ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。
 - (4) **文章表現のきまり**
 - ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
 - ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
 - ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「,」「.」は用いない）。
 - ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
 - ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。
5. **問い合わせ先**
総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線22031 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第34回ビジネスローセンター公開講座 「関税法入門—租税法等とWTO法の交錯」	9月21日(木) 13:30~15:00	本郷キャンパス法学政治学系総合教育棟(通称:法科大学院ガラス棟)101教室	東京大学ビジネスローセンター(BLC) 〒113-0033東京都文京区本郷7-3-1 TEL:03-5805-7298 FAX:03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebcl/
免疫学公開セミナー 「ヘリコバクター・ピロリ菌感染症としての胃癌—細菌が操るトロイの木馬」	9月22日(金) 16:30~17:30	大学院医学系研究科教育研究棟2階第1,2セミナー室	大学院医学系研究科免疫学講座 TEL:03-5841-3373 FAX:03-5841-3450 http://www.immunol.m.u-tokyo.ac.jp/seminar
第21回工学系研究科技術発表会 ※32ページ参照	9月26日(火)	工学部2号館	http://www.ttc.t.u-tokyo.ac.jp/report/present_rep.html
空間情報科学研究センター 2006年度第9回年次シンポジウム・CSIS DAYS 2006 ※34ページ参照	10月4日(水)、 5日(木)	柏キャンパス 総合研究棟(6階)	http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/ 空間情報科学研究センター 第9回年次シンポジウム受付係 E-mail:csisdays06-office@csis.u-tokyo.ac.jp
外国法の調べ方セミナー —アメリカ法—	10月6日(金) 15:00~	附属図書館3階会議室	ビジネスロー・比較法政研究センター03-5841-3198
第3回国際シンポジウム Linguapax Asia Symposium 2006	10月7日(土)	駒場キャンパス	LinguapaxAsia info@linguapax-asia.org http://www.linguapax-asia.org/
物性研究所一般講演会 「太陽光発電の未来とエネルギー問題」 ※35ページ参照	10月9日(月・祝日) 午後2時~5時	柏図書館AVホール	柏地区物性研担当課総務係 〒277-8581 柏市柏の葉5-1-5 FAX:04-7136-3216 E-mail:kouenkai@issp.u-tokyo.ac.jp 10月2日(月)必着
国際シンポジウム 「ヨーロッパの未来—新たな展望/ New Perspectives on the Future of Europe」	10月12日(木) 14:00~18:00	駒場キャンパス 数理学研究科棟大講義室	東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター事務室 desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/sympo_e026.html
2006年度東大シンポジウム 「近現代中国と東アジアの公共性 —自由と統合をめぐる—」	10月14日(土) ~15日(日) 9:00~	駒場キャンパス18号館14日:4F コラボレーションルーム1 15日:1Fホール	総合文化研究科 村田雄二郎研究室 TEL:03-5454-6418 E-mail:murata@ask.c.u-tokyo.ac.jp
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
特別展示「時空のデザイン」展 ※1340号参照	7月22日(土)~10月9日(月・祝)月曜休館(祝日の場合開館、翌日休館)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル03-5777-8600 Fax.03-5841-8451
新規収蔵展示 サンゴ礁の貝類—川口四郎博士コレクション	7月22日(土)~10月9日(月・祝日)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル03-5777-8600 Fax.03-5841-8451
東京大学法学部連続講演会 「高齢化社会と法」	第4回 9月23日(土) 第5回10月21日(土) 第6回11月11日(土) 時間 13:30~15:00 (受付:13:00~)	第4回・第5回 法学政治学系総合教育棟101教室 第6回 法文1号館1階 22番教室	東京大学ビジネスローセンター(BLC) 〒113-0033東京都文京区本郷7-3-1 TEL:03-5805-7298 FAX:03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebcl/
第105回東京大学公開講座「ロボット新世紀」 ※33ページ参照	9月30日(土) ~10月28日(土) (各土曜日 全5回)	大講堂[安田講堂]	東京大学総務部内 財団法人 東京大学総合研究会 電話 03-3815-8345 http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html (東京大学ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座) e-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
第34回生研公開講座イブニングセミナー 「環境のための物質・材料工学最前線」	12月22日(金)(11月3日、24日を除く各金曜日 全10回午後6時から7時30分まで)	生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス)	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL 03 (5452) 6863、6866 FAX 03 (5452) 6071 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
APRU Distance Learning and the Internet 2006 Conference テーマ: Technology Enabled Global Knowledge Structuring	11月8日(水) ~10日(金)	農学部弥生講堂 一条ホール	http://apru2006.dir.u-tokyo.ac.jp/
社会科学研究所国際ワークショップ 「世界における社会科学の日本研究の現状と展望」	11月17日(金) ~11月18日(土)	社会科学研究所大会議室/ 理学部1号館小柴ホール	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学社会科学研究所 Tel03-5841-4904/Fax03-5841-4905 Emailwebmaster@iss.u-tokyo.ac.jp http://www.iss.u-tokyo.ac.jp/

◆ 表紙写真 ◆

オープンキャンパス風景

編集後記

今年4月に採用されてから約5ヶ月、遂に憧れの(?)学内広報スタッフの一員になりました。実は今回、入稿直前に大きなミスをしてしまったのですが、優しい先輩方に助けていただき、こうして皆様の元にお届けすることができました。就職して初めて終電で帰るという経験をするなど思った以上に大変な仕事ですが、早く一人前になれるように日々努力して参ります。皆様、今後とも学内広報をよろしくお願いたします。(あ)

Contents

特集

- 02 『オープンキャンパス2006』、開催！

NEWS

一般ニュース

- 04 総合研究博物館特別展示『時空のデザイン』展の内覧会・レセプション開催される
- 04 「2006年日本・ベトナム学生交流会」一行来訪
- 05 「第1回本郷消防署による講演会」及び「平成18年度文京区総合防災訓練」、開催される

キャンパスニュース

- 06 平成17年度学部卒業者及び大学院修了者（修士・博士課程）の就職状況

部局ニュース

- 13 開講100回目を越えた 教養学部主催「高校生のための金曜特別講座」
- 15 日米科学技術協力「中性子散乱」合同運営委員会を開催
- 15 東大一理研共同核物理国際プログラムの発足
- 16 バイオエンジニアリング専攻設立記念講演会・式典が開かれる
- 17 海洋研究所一般公開
- 18 三鷹国際学生宿舎で留学生の送別会行われる
- 19 外国人留学生・研究員との交流会開催される（薬）
- 19 中国第一歴史档案館と清代日本関係史料の共同研究 プロジェクトはじまる ―国際研究集会を開催―
- 20 第2回SSJデータアーカイブ優秀論文表彰式行われる
- 21 2007看護フォーラム 看護学生のための「合同就職説明会」において看護師募集を実施
- 22 留学生見学旅行（理）
- 22 外国人留学生との懇話会・懇親会を開催（農）
- 23 東京大学イアエステ（IAESTE）研修生歓迎会行われる
- 23 国際シンポジウム「倫理コンサルテーションの現状と展望」
- 24 附属中等教育学校で学校紹介フォーラム開催
- 24 インドネシア科学院 副理事長来所
- 25 野村證券と「大学の財務基盤の強化に関する共同研究」を開始
- 25 130名の児童が教育学部附属中等教育学校の体験授業で中学生気分を1日味わう!!

コラム

- 27 東京大学アクション・プラン2005-2008 [2006年度改定版] の公表について
- 28 さすてなTimes 第1回
- 28 調達本部です 第14回
- 29 Crossroad 産学連携本部だより 第2回
- 30 Flags運動部紹介 No.20
- 31 コミュニケーションセンターだより No.21
- 31 龍岡門横丁 第3回

INFORMATION

シンポジウム

- 32 第21回技術発表会プログラムのご案内
- 33 公開講座「ロボット新世紀」を開催！受講申込受付中！
- 34 第9回年次シンポジウム - CSIS DAYS 2006 - のご案内
- 35 東京大学物性研究所一般講演会
- 35 2006年度東大シンポジウム「近現代中国と東アジアの公共性―自由と統合をめぐる―」のご案内
- 36 国際ワークショップ「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」開催のご案内

募集

- 37 東京大学130周年記念シンボルマーク及びキャラクター募集
- 38 平成19（2007）年度 大学院人文社会系研究科入学試験のお知らせ

お知らせ

- 38 各種選抜要項・募集要項等交付のお知らせ
- 42 総合図書館備付け図書の推薦について
- 42 “情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

事務連絡

- 43 人事異動（教員）

訃報

- 44 松本順一郎名誉教授、植村恒義名誉教授

EVENT LIST

淡青評論

- 48 科学・技術・環境



七徳堂鬼瓦

科学・技術・環境

近代科学・技術は、資源・エネルギーや環境処理能力を無限とする前提の上に成り立っていた。日本もいつのまにか大量生産・大量消費の波に飲まれてしまった。これは、近代科学・技術がもたらした利便性や快適性のためであろう。

ドイツはいうまでもなく科学技術の先進国である。そのドイツがこれまでに蓄積された科学技術を捨て（少し大きさはあるが）、環境先進国へと変貌しつつある。触媒として人体に有害な元素を使用しない、これまでに工業的に使用されてきた触媒よりも多少反応速度が小さくても原子効率の高い（高選択性）ものを使用する（なるべくゴミを出さないように環境負荷を小さくする）等がその例である。科学・技術だけでなくゴミのリサイクルに関しても徹底している。

日本でも、原子効率の高い環境に優しく、資源の少ない貴金属を低減した・あるいは使用しない触媒反応の開発が展開されている。一方で、ゴミ問題は深刻である。私の趣味は溪流釣りである。月に1回程度、奥秩父の山奥に溪流釣りに行く。しかし、車が乗り入れる所は必ず家電などのゴミがあり、徒歩でないと行けない所にはカンなどのゴミが捨てられている。研究に使用される部品はユニット化が進み、不良箇所だけを交換するのではなく、ユニットごと交換するのが主流になっている。これでは家庭だけでなく研究室でもゴミの量が増えるのは当然であろう。さらに、物の修理の方法を知らない（これは学ぶ機会がないからであるが）学生達が多くなったように思う。このように思うのは私だけであろうか？水問題も深刻化している。

今私たちは、どのように科学・技術・環境を調和させて持続可能な社会を築いていくのかを考える時期に来ているのではないのだろうか？

水野哲孝（大学院工学系研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1342 2006年9月13日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>